



消 防 年 報

平成 2 8 年 版



い ち き 串 木 野 市 消 防 本 部

(平成 2 9 年 刊 行)



はじめに

この年報は、いちき串木野市消防本部の現況及び平成28年度における消防業務に関する諸般の事項を収録し、将来の参考に資するとともに、消防事情を広く一般に紹介し、理解と協力を得るため編集したものであります。

なお、この年報の統計資料は、原則として暦年をもって表し、予算に関する事項については、会計年度で作成し、それ以外のものについては、当該表にそれぞれ記載した年月日をもって表してあります。

平成29年 6月

いちき串木野市消防本部

目 次

I 総 括

1	いちき串木野市のあらまし	1
2	市域の変遷	2
3	消防の沿革	2 ~ 9
4	歴代消防長	
(1)	旧串木野市消防本部	1 0
(2)	いちき串木野市消防本部	1 0
5	歴代消防団長	
(1)	旧串木野市	1 1
(2)	旧市来町	1 1
(3)	いちき串木野市	1 1

II 総 務

1	いちき串木野市消防本部・消防署の組織	1 2
2	消防本部・消防署・分遣所の事務分掌	1 3 ~ 1 4
3	いちき串木野市消防現勢分布図	1 5
4	消防庁舎・分遣所・詰所（車庫含む。）の状況	
(1)	消防本部（署）・分遣所	1 6
(2)	消防団	1 6
5	平成28年度の主な行事	1 7
6	消防予算	
(1)	平成28・29年度消防予算	1 8
(2)	市総予算と消防予算	1 9
(3)	消防予算と人口・世帯数との比較	1 9
7	人事・教養	
(1)	消防職員の配置状況	2 0
(2)	消防職員の年齢	2 0
(3)	消防職員の勤続年数	2 1
(4)	消防職員研修状況	2 1
8	消防団	
(1)	消防分団所轄区域、定員及び幹部名	2 2
(2)	消防団員の勤続年数	2 3
(3)	消防団員の年齢	2 3

(4) 消防団員出場状況表	24
(5) 消防団員の報酬等	24
9 いちき串木野市消防連合後援会	25
10 表彰	25

III 予防・危険物

1 防火対象物の状況	26
2 防火対象物階層別状況（4階以上・棟数）	27
3 建築同意事務等処理状況	
(1) 建築同意状況	28
(2) 専用住宅建築確認通知状況	28
4 消防用設備等設置検査実施状況	28
5 消防法関係届出状況	29
6 火災予防条例関係届出状況	30
7 防火啓発状況	31
8 危険物施設の状況	31
9 危険物関係許可・検査処理状況	32
10 危険物施設の立入検査状況	32
11 液化石油ガス等の保安指導状況	33
12 串木野国家石油備蓄基地の概要及び現況	34 ~ 36
13 消防協力団体の結成状況	
(1) いちき串木野市幼少年婦人防火委員会	37
(2) 幼年消防クラブ	37
(3) 婦人防火クラブ	37
(4) 防火管理協会	38
(5) 危険物安全協会	38

IV 火災・救急・救助

1 平成28年中の火災発生状況	39
2 火災統計	
(1) 平成28年中の火災状況	40
(2) 過去5年間の年別火災概要	41
(3) 過去5年間の原因別火災発生件数	41
(4) 過去5年間の月別火災発生件数	42
(5) 過去5年間の曜日別火災発生件数	42
(6) 過去5年間の時刻別火災発生件数	43

(7) 火災発生時の気象状況	4 4
3 救急業務統計	
(1) 救急業務の沿革	4 5
(2) 救急業務取扱状況	4 6
(3) 傷病程度別搬送状況	4 6
(4) 診療科目別搬送状況	4 7
(5) 搬送別状況	4 7
(6) 覚知別出場状況	4 7
(7) 居住地別搬送状況	4 7
(8) 救急救命処置実施状況	4 7
(9) 月別救急出場状況及び搬送人員の状況	4 8
(10) 曜日別救急出場状況	4 9
(11) 現場到着所要時間別出場件数	4 9
(12) 収容所要時間別搬送人員	4 9
(13) 時間別出場状況（総件数及び急病件数）	5 0
(14) 市別搬送状況（搬送先）	5 0
(15) 救急出場件数の推移	5 1
(16) 過去5年間の救急出場状況	5 1
(17) 年齢別搬送人員状況	5 2
(18) 各比率	5 2
4 救助業務統計	
(1) 救助出動状況	5 3
(2) 過去5年間の救助出動状況	5 3
5 応援協定等の締結状況	5 4

V 機械・水利

1 基準消防力と現有消防力との比較	
(1) 消防本部（署）	5 5
(2) 消防団	5 5
(3) 消防職・団員と市民との割合	5 5
2 消防機械器具及び水利状況	
(1) 消防署の消防車両状況	5 6
(2) 消防団の消防車両及び小型ポンプの状況	
ア 串木野地域	5 7
イ 市来地域	5 8
(3) 署・各分団ポンプ及びホース保有状況	5 9

(4) 消防資機材の保有状況	6 0
(5) 消火薬剤等の保有状況	6 1
(6) 原子力防災資機材の保有状況	6 1
(7) 消防水利の状況（消防水利の基準に適合しないものも含む。）	
ア 串木野地域	6 2
イ 市来地域	6 3
(8) 消防無線の状況	
ア 消防本部	6 4
イ 消防団	6 5

VI 気 象

1 気象観測の状況	6 6
2 風向の状況	6 7
3 各地の降水量（防災テレメーターによる。）	6 7

I 総括

面積 112.30km²

人口 28,569人

世帯数 13,351世帯

(平成29年4月1日現在)

1 いちき串木野市のあらし

いちき串木野市は、平成 17 年 10 月 11 日、旧串木野市と旧日置郡市来町が合併して誕生した新しい市である。

本市は、薩摩半島の北西部にあり西は東シナ海に面し、日本三大砂丘のひとつである吹上浜の北端に位置している。北東側には、標高 516 メートルの徐福伝説のある霊峰冠岳及び 519 メートルの弁財天を最高に数々の分峰が連なり、北は薩摩川内市と接し、南は大里平野と小丘をもって日置市に接している。また、東シナ海に面した良港に恵まれ、近海・遠洋漁業が盛んに行われ「マグロのまち串木野」として知名度が高い。

本市には、今から 4000 年～3000 年前（縄文時代後期中ごろ）から既に人が住みつき、土器を使用し海と関わり、陸地で植物を栽培する生活をしていたことが実証されている。その証として、市来川上貝塚の発見研究により、市来式土器と呼ばれる様式の土器などが多数発掘され、その時代から海と陸の関わりある生活を営んでいたことがうかがわれ、時代とともに集落などの形を変え現在に至っている。

市来湊町では、今から約 400 年前、島津義弘の朝鮮役での活躍を祝って踊られた国指定の重要無形民族文化財の「七夕踊り」や約 200 年前、商港、宿場町として栄えたころ、京都の祇園祭に似せて行われたという「祇園祭」など、その昔からの芸能を現在も引き継いできており、海を介して経済、文化などに影響がもたらされている。

江戸時代末期（1865 年）には、薩摩藩の命により我が国初の海外留学生一行 19 名が、ヨーロッパへ向けて密かに出航し、初代文部大臣森有礼らなど近代日本の幕開けの原動力となった若き薩摩の志士一行が出航した黎明の地が羽島である。

平成 6 年に完成した串木野国家石油備蓄基地は、西薩町から荒川地内にかけて地下の岩盤内にトンネル 10 本を掘削し、我が国で消費される 3 日分に相当する 169 万キロリットルの原油を国の政策に基づき、常圧貯蔵横穴水封固定水床式で備蓄している。

このように本市は、昔から海との関わりが深く、様々な恵みをもたらす海を背景に焼酎・つけあげ・柑橘類などの地元産品、近年ではまぐろラーメン・ポンカレーなど食に関する知名度も向上し、様々な特色のある資源を有しており、現在、港湾施設や臨海部の整備を進めるとともに、企業誘致を図り、串木野新港を主に中国・東南アジア等との国際交易圏づくりをめざしている。

また、南九州西回り自動車道の整備や内陸部の開発などにより、本市を取り巻く交通・物流体系が一段と整備され、活発化している。

古い歴史と伝統のあるまち、白砂青松の吹上浜、山と緑の美しい環境の新しいいちき串木野市は、新市の基本理念として、「ひとが輝く 地域が輝く～地域ブランドによる自立したすこやかな都市の創造～」を設定し、「ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」を将来の都市像に掲げ、新しいいちき串木野市の創造に向けて努力しているところである。

2 市域の変遷

年 月 日	事 項	面 積 (km ²)	人 口			世 帯 数
			計	男	女	
明治 22. 4. 1	冠岳村、上名村、下名村、荒川村、羽島村の 5 ケ村が合併して串木野村となる。	79.60	—	—	—	
明治 22. 4. 1	湊村、大里村、川上村が合併して、市来村となる。					
昭和 5. 4. 1	町制施行 (市来町)					
昭和 10. 4. 1	町制施行 (串木野町)	79.60	24,637	11,727	12,910	5,501
昭和 25. 10. 1	市制施行 (串木野市)	79.60	33,884	16,483	17,401	7,182
平成 17. 10. 11	串木野市、市来町の 1 市 1 町で合併して、いちき串木野市となる。	112.02	33,087	15,516	17,571	13,601

3 消防の沿革

明治 3 6 年 1 2 月	○串木野村消防組創立
大正 5 年 9 月	○腕用ポンプ購入
大正 5 年	○市来村湊町に公設消防組を組織 (他の地域は、私設消防組を組織)
大正 9 年	○青年団により私設の島内消防組を組織 (鳶口10丁、水汲み用木製ツルベ10個、梯子1つを配備)
昭和 6 年 1 0 月	○行幸記念事業で手引ガソリンポンプ購入
昭和 9 年 5 月	○消防ポンプ自動車 (フォード) 購入
6 月	○優良消防組として県知事表彰を受ける。
昭和 1 0 年 4 月	○町制施行により串木野町消防組に改称
昭和 1 4 年 4 月	○内務省令により串木野町警防団 (7 分団) に改称 ○市来町警防団を結成 (4 分団)
昭和 2 0 年 6 月	○中央分団地区から本浦地区を分離し、水上分団を設立
昭和 2 2 年 8 月	○警防団の組織を串木野町消防団 (8 分団)、市来町警防団 (4 分団) として改編
昭和 2 3 年 5 月	○串木野町消防団常備部発足 (部員 1 2 名、消防車 [フォード] 1 台)
9 月	○電話器が常備詰所に設置される。
昭和 2 5 年 8 月	○優良消防団として消防庁長官表彰を受ける。
1 0 月	○市制施行により串木野市消防団と改称
昭和 2 6 年 4 月	○常備部団員定員 1 4 名となる。(2 名増員)
昭和 2 9 年 1 月	○常備部詰所を浜田通りロータリー南西角に移転 (現在の旭町 1 番地)
3 月	○常備部に消防ポンプ自動車 (日産) を購入
4 月	○串木野市消防本部・消防署設置 (職員数 1 5 名) 初代消防長 大園純夫就任
1 0 月	○消防職員 1 名退職 1 名採用 (実員 1 5 名)
昭和 3 0 年 6 月	○中央分団に消防ポンプ自動車 (トヨタ) を購入し、運搬車を照島分団に配置替
8 月	○水上分団及び照島分団に小型動力ポンプ (ラビット) を購入
9 月	○消防団定数条例改正 2 3 7 名となる。 ○水上分団を本浦分団に改称
昭和 3 1 年 5 月	○消防職員 1 名退職 1 名採用 (実員 1 5 名)
昭和 3 1 年 1 0 月～ 昭和 3 2 年 1 0 月	○生福、旭、羽島、荒川、冠岳、中央の各分団に小型動力ポンプ、本浦分団に運搬車を購入

昭和33年	4月	○消防団定数条例改正 227名となる。
	6月	○消防職員1名退職1名採用(実員15名)
	11月	○第1回串木野市消防操法技能競技大会を実施
昭和34年	6月	○消防職員1名退職1名採用(実員15名)
昭和34年	7月~	○照島分団に運搬車、本浦・照島分団に小型動力ポンプ、消防署に水槽付ポンプ自動車を購入
昭和35年	10月	
昭和36年	4月	○消防職員1名採用(実員16名)
	5月	○消防職員1名退職1名採用(実員16名)
	9月	○串木野警察署と「災害救助に関する協定」を締結
昭和37年	4月	○中央分団に運搬車、照島分団別府班に小型動力ポンプを購入
昭和38年	11月	○本浦分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入し、運搬車を旭分団に配置替
昭和39年	2月	○本浦分団及び照島分団別府班のポンプ庫を新築
	5月	○羽島分団土川班に小型動力ポンプを購入
昭和40年	4月	○消防職員1名採用(実員17名)
	7月	○消防団定数条例改正 204名となる。 ○串木野局の電話自動化により119番の専用線を開設
	9月	○消防職員1名市役所へ転出(実員16名)
昭和41年	2月	○日本消防協会より、消防団表彰旗を授与される。
	4月	○消防職員1名採用(実員17名)
	7月	○第2代消防長 大久保重雄就任 ○消防職員1名市役所へ転出1名転入(実員17名)
	11月	○消防署に消防ポンプ自動車(トヨタ)を購入し、昭和29年3月購入の消防ポンプ自動車(日産)を羽島分団に配置替
昭和42年	1月	○羽島分団の車庫を羽島5, 237番地に新築
	7月	○消防職員1名市役所から転入(実員18名) ○市来町・東市来町との消防相互応援協定を締結
	8月	○中央分団に小型動力ポンプを購入 ○消防団定数条例改正 210名となる。
	9月	○消防職員1名採用(実員19名)
昭和43年	2月	○消防署に救急自動車(日産セドリック)を購入、任意で救急業務を開始
	3月	○消防職員1名採用(実員20名)
	5月	○川内市と消防相互応援協定を締結
	12月	○生福分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入
昭和44年	3月	○消防無線局を開設
	4月	○消防職員1名市役所から転入(実員21名)
	8月	○消防職員1名市役所へ転出(実員20名)
	11月	○照島分団に消防ポンプ自動車(トヨタ)を購入(運搬車を廃車)
	12月	○市来町・東市来町との救急業務応援協定を締結
昭和45年	1月	○消防職員1名採用(実員21名)
	4月・5月	○川内市と救急業務相互応援協定、里村・上甕村と救急業務応援協定を締結
	6月	○串木野海上保安部と「船舶火災の消火に関する業務協定」を締結
昭和46年	3月	○旭分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入(運搬車を廃車)
	6月	○消防法施行令の一部改正により本市の救急業務実施が義務化
	7月・8月	○樋脇町と消防相互応援協定並びに救急業務応援協定、下甕村と救急業務応援協定を締結
	9月	○消防職員1名採用(実員22名)
	10月	○第3代消防長 入江 森就任

昭和46年10月	○消防職員1名市役所へ転出（実員21名）
11月	○消防職員1名採用（実員22名）
	○中央分団に消防ポンプ自動車（トヨタ）を購入（更新）
昭和47年2月	○市合同庁舎が昭和通133番地1に新築され、消防本部・署も移転
	○中央分団の車庫詰所を旭町1番地2に新築
3月	○優良消防機関（署・団）として消防庁長官表彰を受ける。
8月	○荒川分団の車庫詰所を荒川2, 347番地に新築
12月	○冠岳分団の車庫詰所を冠岳12, 984番地2に新築
	○冠岳分団に消防ポンプ自動車（日産）、羽島分団に小型動力ポンプを購入
昭和48年2月	○鹿島村と救急業務応援協定を締結
3月	○生命保険協会から救急自動車の寄贈を受ける。
7月	○日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署に配置
	○消防職員1名採用（実員23名）
9月	○消防職員1名採用（実員24名）
11月	○荒川分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入
	○旭分団の車庫詰所を下名14, 105番地に新築
昭和49年4月	○消防職員1名退職1名採用（実員24名）
11月	○羽島地区の電話自動化により119番専用線を開設
12月	○羽島分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入（更新）
昭和50年9月	○照島分団の車庫詰所を下名7, 574番地1に新築
10月	○消防署に水槽付消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）
12月	○中央分団に運搬車（トヨタ）を購入（更新）
昭和51年4月	○羽島分団の車庫に隣接して詰所を新築
6月	○消防団本部に赤バイ（ヤマハ250cc）を購入
7月	○本浦分団及び生福分団に小型動力ポンプを購入（更新）
10月	○本浦分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入（更新）
	○市来町消防団役場分団結成
	日本消防協会から可搬動力ポンプ積載車の寄贈及び松下町長の命を受け、17名で発足する。
12月	○職員定数条例改正 26名となる。
昭和52年4月	○消防職員1名退職3名採用（実員26名）
9月	○日本消防協会から救急自動車の寄贈を受ける。
	○旭、照島分団に小型動力ポンプを購入（更新）
昭和53年3月	○職員定数条例改正 28名となる。
4月	○消防職員2名採用（実員28名）
5月	○荒川分団に小型動力ポンプを購入（更新）
7月	○羽島分団土川班に小型動力ポンプを購入（更新）
10月	○日本防火協会から広報車の寄贈を受ける。
昭和54年3月	○羽島分団土川班のポンプ庫詰所を羽島9, 675番地に新築
4月	○消防職員2名採用（実員30名）
5月	○消防職員1名退職（実員29名）
6月	○照島分団及び照島分団別府班に小型動力ポンプを購入（更新）
8月	○荒川分団に小型動力ポンプを購入（更新）
9月	○荒川分団の小型動力ポンプ（53年5月購入分）を旭分団に配置替
11月	○消防署に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）
	○本浦分団の車庫詰所を西浜町1番地に新築
12月	○消防職員1名退職（実員28名）

昭和55年	1月	○第4代消防長 軍神 計就任
	6月	○中央分団に小型動力ポンプを購入(更新)
昭和55年	7月	○冠岳分団に小型動力ポンプを購入(更新)
	12月	○生福分団の車庫詰所を上名9, 129番地に新築
昭和56年	2月	○消防職員1名退職(実員27名)
		○日本自動車工業会から救急車の寄贈を受ける。
	4月	○消防職員2名採用(実員29名)
	5月	○川内地区消防組合と「消防及び救急業務応援協定」を締結(川内市との従前の協定を破棄)
	8月	○第1回串木野市消防団規律訓練大会を実施
昭和57年	3月	○消防職員1名退職(実員28名)
		○甕島4村及び樋脇町との救急業務応援協定を破棄
	10月	○日置地区消防組合と「消防・救急業務応援協定」を締結(市来町・東市来町との従前の協定を破棄)
	11月	○生福分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入(更新)
昭和58年	12月	○照島分団別府班のポンプ庫詰所を下名3, 362番地2に新築
昭和59年	2月	○消防本部・署の庁舎を昭和通133番地1に新築し移転
	4月	○指宿地区消防組合と「消防無線使用時の混信に関する協定」を締結
	11月	○照島分団に消防ポンプ自動車(日野)を購入(更新)
昭和60年	3月	○第5代消防長 植屋一郎就任
		○消防職員1名市役所へ転出(実員27名)
	4月	○消防職員1名採用(実員28名)
		○串木野ライオンズクラブから指揮連絡車(日産)の寄贈を受け、消防署に配置
	10月	○中央分団に消防ポンプ自動車(日野)を購入(更新)
昭和61年	10月	○消防職員条例定数改正 31名となる。
		○羽島分団土川班に小型動力ポンプ積載車(トヨタ)を購入
	12月	○市来町・樋脇町と「消防相互応援協定」を締結
		○川南分団に消防ポンプ自動車を購入(更新)
昭和62年	3月	○消防職員1名退職(実員27名)
	4月	○消防職員4名採用(実員31名)
	10月	○消防署に消防ポンプ自動車(三菱)を購入(更新)
	12月	○川上分団に消防ポンプ自動車を購入(更新)
昭和63年	12月	○旭分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入(更新)
平成元年	2月	○消防署に救急車(トヨタ)を購入(更新)
	3月	○消防職員1名退職(実員30名)
	4月	○消防職員1名採用(実員31名)
	10月	○消防職員条例定数改正 34名となる。
		○冠岳分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入(更新)
平成2年	1月	○コーアガス鹿児島(株)から救急車(トヨタ)の寄贈を受ける。
	3月	○昭和56年に日本自動車工業会から寄贈された救急車を運搬車に改造し、照島分団別府班に配置
	4月	○消防職員3名採用(実員34名)
	10月	○消防職員条例定数改正 38名となる。
		○消防署にはしご付消防自動車(24m級)を購入
		○荒川分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入(更新)
平成3年	3月	○串木野市消防団条例の全部改正
平成3年	4月	○消防職員2名採用(実員36名)

平成 3 年	9 月	○消防職員 1 名採用（実員 3 7 名） ○消防署に水槽付消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新）
平成 4 年	1 月	○鹿児島県消防相互応援協定締結
	3 月	○羽島分団に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新）
	4 月	○消防職員 1 名市役所へ異動（実員 3 6 名）
	8 月	○日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車（いすゞ）の寄贈を受け、中央分団に配置
	1 0 月	○石油コンビナート等特別防災区域指定 ○本浦分団に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新）
	1 1 月	○消防庁舎の車庫、倉庫を増改築 ○消防職員 1 名退職（実員 3 5 名） ○昭和 5 0 年に購入した中央分団の運搬車を消防署に配置替
	1 2 月	○消防署に化学消防ポンプ自動車（三菱）を購入
平成 5 年	3 月	○消防職員 1 名退職（実員 3 4 名） ○中央分団の車庫詰所を旭町 1 番地 2 に中央地区コミュニティ消防センターとして新築
	4 月	○第 6 代消防長 俣木一幸就任 ○消防職員 3 名採用（実員 3 7 名）
	1 0 月	○役場分団に小型動力ポンプ積載車を購入（更新）
平成 6 年	3 月	○荒川分団の車庫詰所を荒川 2, 4 5 0 番地に新築 ○消防職員 1 名退職（実員 3 6 名）
	4 月	○消防職員 1 名採用（実員 3 7 名）
	8 月	○串木野海上保安部と「船舶火災の消火に関する業務協定」の一部改正
	1 0 月	○鹿児島県消防相互応援協定の一部改正
	1 2 月	○照島分団別府班に小型動力ポンプ積載車（トヨタ）を購入（更新）
平成 7 年	2 月	○旭分団の車庫詰所を下名 1 4, 1 0 3 番地 1 5 に旭地区コミュニティ消防センターとして新築
	3 月	○冠岳分団の車庫詰所を冠岳 1 2, 9 8 4 番地 2 に冠岳地区コミュニティ消防センターとして新築 ○消防職員 1 名退職（実員 3 6 名）
	4 月	○消防職員 1 名市役所へ異動 ○第 7 代消防長 尾崎正躬就任 ○消防職員 2 名採用（実員 3 8 名）
平成 8 年	3 月	○照島分団の車庫詰所を東島平町 4 1 7 番地 1 に照島地区コミュニティ消防センターとして新築
	4 月	○団本部に指揮連絡車（トヨタ）を購入 ○消防職員 1 名市役所へ異動 ○消防職員 1 名採用（実員 3 8 名）
	8 月	○日本損害保険協会から救助工作車の寄贈を受け消防署に配置
	1 1 月	○生福分団に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新） ○昭和 5 7 年に購入した生福分団の消防ポンプ自動車を消防署に運搬車として配置換え ○本浦分団、生福分団に小型動力ポンプを購入（更新）
平成 9 年	1 月	○消防署に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新）
	3 月	○羽島分団の車庫詰所を羽島 5, 2 1 8 番地に羽島コミュニティ消防センターとして新築 ○消防職員 1 名退職（実員 3 7 名）

平成 9年	4月	○第8代消防長 植ノ原敬一就任 ○消防職員1名採用（実員38名）
	9月	○日本地下石油備蓄(株)串木野事業所と応援協定を締結
	11月	○中央仮設株式会社から指揮広報車の寄贈を受け消防署に配置
	12月	○湊・川北分団に消防ポンプ自動車を購入（更新）
平成10年	1月	○羽島分団に小型動力ポンプを購入（更新）
	2月	○旭分団に小型動力ポンプを購入（更新）
	3月	○消防職員1名退職（実員37名）
	4月	○川内地区消防組合と「携帯電話等からの119番通報転送等に関する協定」を締結
	8月	○日本消防協会から軽可搬ポンプ付軽積載車の寄贈を受ける。
	12月	○照島分団に小型動力ポンプを購入（更新）
平成11年	3月	○消防職員1名退職（実員36名）
	4月	○第9代消防長 橋之口博繁就任 ○消防職員1名採用（実員38名）
平成12年	3月	○串木野市医師会と「救急救命士に対する医師の指示に関する協定」を締結 ○本浦分団車庫詰所を西浜町1番地2に本浦地区コミュニティ消防センターとして新築（平成11年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	11月	○消防署に小型動力ポンプ付積載車を購入（石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○高規格救急自動車を購入し、平成13年1月1日運用開始（平成12年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○気象情報収集装置を整備（平成12年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○鹿児島県より原子力防災資機材として軽トラック（運搬車）の貸与を受け、消防署に配置
	12月	
平成13年	3月	○消防職員1名退職（実員37名）
	4月	○第10代消防長 平石耕二就任 ○消防署に救急車（トヨタ）を購入（更新） ○荒川、旭、冠岳分団に小型動力ポンプ（B3級）を購入（平成13年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	12月	
平成14年	9月	○旭分団芹ヶ野ポンプ庫撤去
	12月	○川西薩地区法定合併協議会（2市4町3村）が設置され、消防本部は消防防災分科会を担当 ○消防職員1名市役所へ異動
平成15年	4月	○第11代消防長 福菌照雄就任 ○消防職員1名採用（実員38名） ○串木野市は川西薩地区法定合併協議会を離脱 ○川南・川上分団に小型動力ポンプを購入（更新）
	7月	○串木野・市来合併協議会が設置され、消防本部は消防防災分科会を担当
	10月	○生福地区コミュニティ消防センターの建設用地を購入（上名6, 660番1外2筆・面積452.33㎡）
	12月	（平成15年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成16年	4月	○串木野市消防本部の組織等に関する規則の一部改正 「施設装備係」を「救急救助係」に改めるとともに、消防本部の事務分掌も一部改めた。
	10月	○湊・川北分団に小型動力ポンプを購入（更新）
平成17年	2月	○日置地区消防組合と「川内道路における消防相互応援協定」を締結

平成17年	3月	<ul style="list-style-type: none"> ○国土交通省鹿児島国道事務所・県警察本部交通部高速道路交通警察隊・日置地区消防組合と「南九州西回り自動車道における緊急時の通報並びに出動に関する協定」を締結（3月13日 串木野・市来区間開通） ○生福分団の車庫詰所を上名6,660番地1に生福地区コミュニティ消防センターとして新築（平成16年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○本浦分団、照島分団、生福分団に小型動力ポンプ（B3級）を購入（平成16年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○簡易地図検索装置を整備（平成16年度緊急地域雇用創出特別基金事業及び原子力防災資機材） ○消防職員1名退職（実員37名）
	4月	○第12代消防長 野田 豊就任
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村合併（串木野市と市来町）により新市「いちき串木野市」誕生 ○いちき串木野市消防本部・消防署・いちき分遣所発足 ○初代消防長 野田 豊就任 ○職員8名（日置地区消防組合職員3名・旧串木野市役所職員1名・旧市来町役場職員4名）が転任、実員45名となる。いちき分遣所に12名を配置する。 ○串木野市消防団と市来町消防団は、合併により1団を形成し、「いちき串木野市消防団」となる。（団長1名、副団長4名、13分団、定数299名） ○救急3号車運用開始
平成18年	3月	<ul style="list-style-type: none"> ○梯子付消防自動車（日野）のオーバーホール（平成17年度電源立地地域対策等交付金事業） ○中央・照島分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）（平成17年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○消防職員2名退職（実員43名）
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○第2代消防長 内屋照男就任 ○消防職員5名採用（実員48名）
	12月	○高規格救急車（日産）を購入し、12月23日運用開始（いちき分遣所配置換え）（平成18年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成19年	3月	<ul style="list-style-type: none"> ○消防署に消防ポンプ自動車（日野・CD-I型）を購入（更新）（平成18年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○消防職員1名退職（実員47名）
	11月	○中央分団に小型ポンプ（B-3級）を購入（更新）（平成19年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成20年	3月	<ul style="list-style-type: none"> ○川南分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）（平成19年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○羽島分団に小型動力ポンプ付積載車（日産）を購入（更新）（平成19年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○消防職員1名退職（実員46名）
	4月	○消防職員2名採用（消防吏員1名、その他職員1名）（実員48名）
平成21年	1月	○川上分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）（平成20年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○消防本部・消防署の組織再編を行う。 ○救急救助係の救助業務を警防係に移管し救急係とする。
平成22年	1月	○日本消防協会から防災活動車（日産）の寄贈を受け、消防署に配置
	2月	○日置市消防本部から水槽付消防ポンプ自動車（日野）の譲渡を受け、消防署に配置
	3月	○旭分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）

平成22年	4月	○消防職員2名退職（実員46名） ○消防職員2名採用（実員48名）※その他職員から消防吏員に転任（1名） ○第3代消防長 池田 豊 就任
	6月	○消防職員1名退職（実員47名）
平成23年	2月	○鹿児島県消防学校から救助工作車（三菱）の譲渡を受け、消防署に配置 ○消防署に水槽付消防ポンプ自動車（日野・水-II型）を購入（更新） （平成22年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	4月	○消防職員1名採用（実員48名）
	9月	○消防職員1名退職（実員47名）
平成24年	2月	○消防署に高規格救急車（日産）を購入（更新） （平成23年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	3月	○消防職員1名退職（実員46名）
	4月	○第4代消防長 深山龍朗 就任 ○消防職員1名採用（実員48名）
	12月	○荒川・冠岳分団に小型ポンプ搭載消防自動車（トヨタ）を購入（更新） （平成24年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成25年	1月	○消防署に高規格救急車（トヨタ）を購入（更新） （平成24年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	4月	○消防職員1名市役所へ出向 市役所職員1名消防本部に事務職員として出向（実員48名）
	12月	○羽島分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新） （平成25年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成26年	11月	○梯子付消防自動車（日野）のオーバーホール （平成26年度電源立地地域対策等交付金事業）
平成27年	2月	○本浦分団に消防ポンプ自動車（トヨタ）を購入（更新） （平成26年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○中央分団に小型動力ポンプ付積載車（トヨタ）を購入（更新） （平成26年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	3月	○消防職員1名退職（実員47名）
	4月	○第5代消防長 原菌照明 就任 ○消防職員1名市役所から帰任（実員48名）
	12月	○化学消防自動車（三菱）のオーバーホール （平成27年度電源立地地域対策交付金事業）
平成28年	1月	○消防署に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新） （平成27年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	2月	○照島分団に小型動力ポンプ付積載車（トヨタ）を購入（更新） （平成27年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	3月	○消防救急デジタル無線の整備完了（施工業者：楸九電工） ○消防職員1名退職（実員47名）
	4月	○消防職員1名採用（実員48名） ※平成28年4月1日から本格運用開始
	11月	○消防署に救助工作車（日野）を購入（更新） （平成28年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成29年	3月	○消防職員1名退職（実員47名）
	4月	○第6代消防長 前屋満治 就任 ○事務職員1名市役所に異動（実員46名） ○消防職員2名採用（実員48名）

4 歴代消防長

(1) 旧串木野市消防本部

代	就任年月	退任年月	氏名
初代	昭和29年 4月	昭和41年 6月	大 園 純 夫
第2代	昭和41年 7月	昭和46年 9月	大 久 保 重 雄
第3代	昭和46年10月	昭和54年12月	入 江 森
第4代	昭和55年 1月	昭和60年 3月	軍 神 計
第5代	昭和60年 3月	平成 5年 3月	植 屋 一 郎
第6代	平成 5年 4月	平成 7年 3月	俣 木 一 幸
第7代	平成 7年 4月	平成 9年 3月	尾 崎 正 躬
第8代	平成 9年 4月	平成11年 3月	植ノ原 敬一
第9代	平成11年 4月	平成13年 3月	橋 之 口 博 繁
第10代	平成13年 4月	平成15年 3月	平 石 耕 二
第11代	平成15年 4月	平成17年 3月	福 藺 照 雄
第12代	平成17年 4月	平成17年10月	野 田 豊

(2) いちき串木野市消防本部

代	就任年月	退任年月	氏名
初代	平成17年10月	平成18年 3月	野 田 豊
第2代	平成18年 4月	平成22年 3月	内 屋 照 男
第3代	平成22年 4月	平成24年 3月	池 田 豊
第4代	平成24年 4月	平成27年 3月	深 山 龍 朗
第5代	平成27年 4月	平成29年 3月	原 藺 照 明
第6代	平成29年 4月	現 在	前 屋 満 治

5 歴代消防団長

(1) 旧串木野市

	代	就任年月	退任年月	氏名
消防組	初代	明治36年12月	明治44年5月	中尾浅助
	第2代	明治44年6月	大正5年7月	江藤千代藏
	第3代	大正5年7月	大正5年11月	松元幸助
	第4代	大正5年11月	大正11年6月	折田金次郎
	第5代	大正11年6月	昭和5年10月	池田良之助
	第6代	昭和5年10月	昭和14年3月	江藤千代藏
警防団	第7代	昭和14年4月	昭和14年9月	田尻森吉 (町長兼務)
	第8代	昭和14年10月	昭和19年4月	江藤千代藏
	第9代	昭和19年4月	昭和22年7月	花牟禮武夫
消防団	第10代	昭和22年8月	昭和26年8月	富宿與助
	第11代	昭和26年8月	昭和30年7月	福山盛吉
	第12代	昭和30年8月	昭和37年3月	富宿與助
	第13代	昭和37年4月	昭和43年3月	須崎 巽
	第14代	昭和43年4月	昭和47年3月	寺師彦好
	第15代	昭和47年4月	昭和63年3月	益満利幸
	第16代	昭和63年4月	平成16年3月	網屋長行
第17代	平成16年4月	平成17年10月	岡田正治	

(2) 旧市来町 (※ 昭和14年4月に警防団を結成、初代団長は井上新吉でその他については、不明)

	代	就任年月	退任年月	氏名
消防団	初代	昭和22年8月	昭和52年4月	田崎勇藏
	第2代	昭和52年5月	昭和57年6月	白石久治
	第3代	昭和57年6月	昭和59年4月	久木 藺耕平
	第4代	昭和59年5月	平成3年9月	西ノ園厚志
	第5代	平成3年10月	平成5年3月	前田二夫
	第6代	平成5年4月	平成9年3月	新村 明
	第7代	平成9年4月	平成17年10月	山元幸夫

(3) いちき串木野市

代	就任年月	退任年月	氏名
初代	平成17年10月	平成25年3月	岡田正治
第2代	平成25年4月	平成29年3月	井手迫正昭
第3代	平成29年4月	現在	大迫修藏

Ⅱ 総 務

消防組織 1本部 1署 1分遣所 1団（12分団）

消防職員 48名（平均年齢 43.4歳）

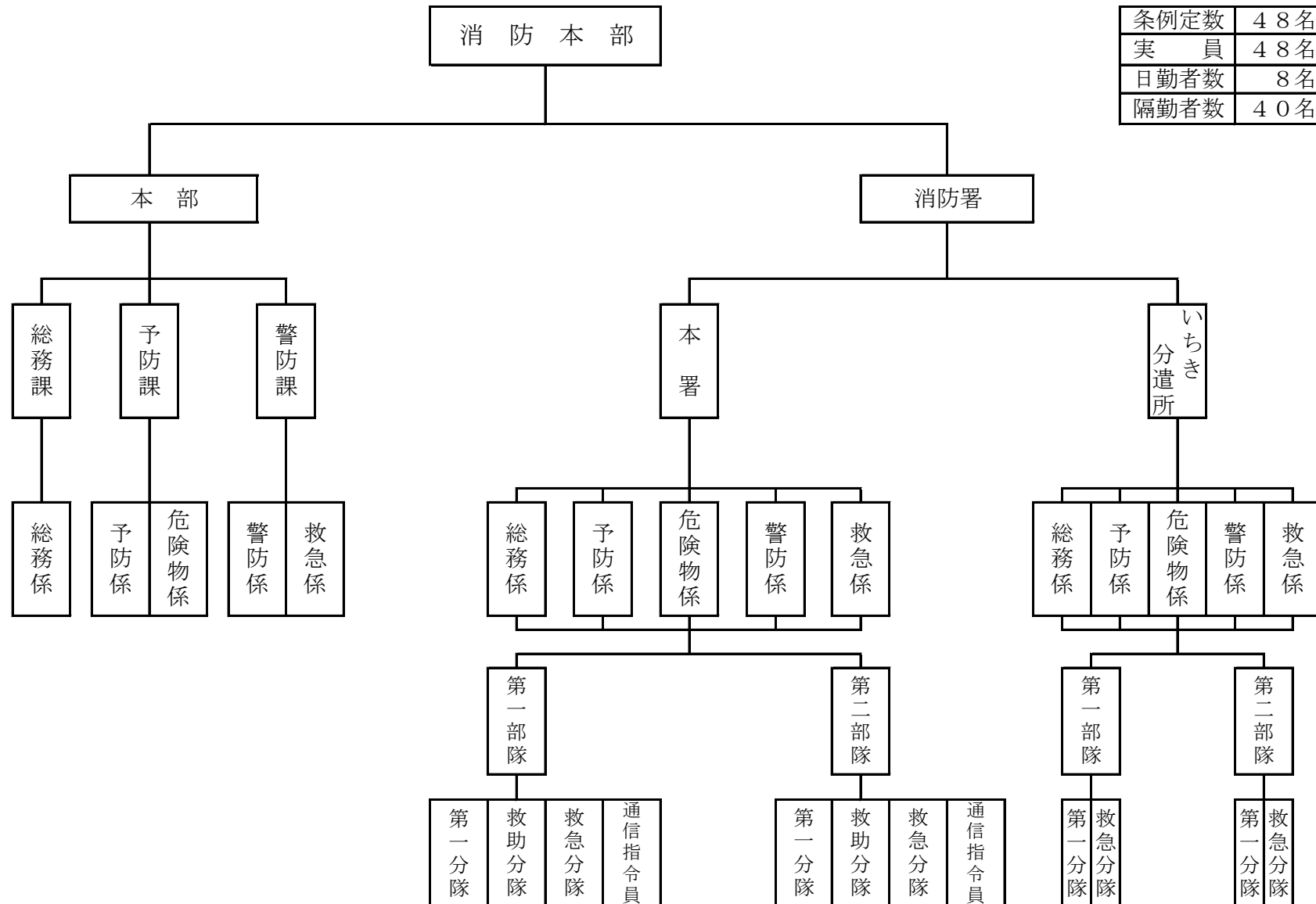
消防団員 258名（平均年齢 47.8歳）

平成29年度消防予算 606,610千円

（住民1人当り 21,233円）

いちき串木野市消防本部・消防署の組織

平成29年4月1日現在



条例定数	48名
実員	48名
日勤者数	8名
隔勤者数	40名

2 消防本部・消防署・分遣所の事務分掌

<消防本部>

【総務課】

○ 総務係

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| (1) 職員の人事及び組織に関すること。 | (12) 職場及び職員の安全管理並びに衛生管理に関すること。 |
| (2) 職員の服務に関すること。 | (13) 職員の教養、研修等の総括に関すること。 |
| (3) 職員の階級、任免、分限及び懲戒に関すること。 | (14) 情報公開に関すること。 |
| (4) 公務災害補償及び消防賞じゅつ金に関すること。 | (15) 消防年報及び消防統計に関すること。 |
| (5) 予算の編成及び執行に関すること。 | (16) 消防表彰に関すること。 |
| (6) 物品の購入、保管及び処分に関すること。 | (17) 職員及び団員の福利厚生に関すること。 |
| (7) 職員及び団員の被服及び貸与品に関すること。 | (18) 会議及び儀式に関すること。 |
| (8) 公有財産に関すること。 | (19) 消防協会及び消防学校に関すること。 |
| (9) 公印の保管に関すること。 | (20) 消防職員委員会に関すること。 |
| (10) 文書の受発、編さん及び保存に関すること。 | (21) 消防手数料等の収納に関すること。 |
| (11) 条例、規則、規程等の制定及び改廃に関すること。 | (22) 消防長会に関すること。 |
| | (23) 消防連合後援会に関すること。 |
| | (24) 消防団員互助会に関すること。 |
| | (25) 消防団事務に関すること。 |
| | (26) 他の係に属さないこと。 |

【予防課】

○ 予防係

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| (1) 火災予防の企画に関すること。 | (6) 防火管理者の指導及び育成に関すること。 |
| (2) 火災予防査察に関すること。 | (7) 防火管理協会及び幼少年婦人防火委員会に関すること。 |
| (3) 建築同意事務に関すること。 | (8) その他火災予防に関すること。 |
| (4) 消防用設備等に係る検査及び指導に関すること。 | |
| (5) 火災の調査、統計、報告及び証明に関すること。 | |

○ 危険物係

- | | |
|-------------------------------|---|
| (1) 危険物施設の許認可及び検査並びに指導に関すること。 | (5) 石油コンビナート等特別防災区域の指導に関すること。 |
| (2) 危険物の仮貯蔵及び仮取扱いの承認に関すること。 | (6) 火薬類取締法（昭和 25 年法律第 149 号）の規定に基づく煙火の消費に関すること。 |
| (3) 危険物施設の予防査察に関すること。 | (7) 危険物安全協会に関すること。 |
| (4) 液化石油ガス販売事業の意見書に関すること。 | (8) その他危険物に関すること。 |

【警防課】

○ 警防係

- (1) 消防計画及び各種防災計画に関すること。
- (2) 火災その他の災害等の警戒及び防御に関すること。
- (3) 災害統計（火災、救急統計を除く。）及び報告に関すること。
- (4) 消防応援協定に関すること。
- (5) 職員及び団員の警防関係教育訓練に関すること。
- (6) 消防施設、装備等の整備計画及び維持管理に関すること。
- (7) 国庫補助金、石油交付金等に関すること。
- (8) 気象、防災情報等の収集、伝達及び広報に関すること。
- (9) 消防無線及び防災行政無線に関すること。
- (10) 消防用燃料の受払いに関すること。
- (11) 救助及び潜水業務に関すること。
- (12) その他警防に関すること。

○ 救急係

- (1) 救急業務に関すること。
- (2) 救急の統計、報告及び証明に関すること。
- (3) 職員の救急教育訓練に関すること。
- (4) 救急資機材の維持管理に関すること。
- (5) 応急手当の普及啓発に関すること。
- (6) 医師会、医療機関等との連絡調整に関すること。
- (7) その他救急に関すること。

<消防署>

- (1) 消防通信及び受付事務に関すること。
- (2) 火災、救急、救助、風水害等の災害活動に関すること。
- (3) 火災その他の災害の警戒に関すること。
- (4) 署内の会議に関すること。
- (5) 署長会に関すること。
- (6) 防火広報、予防及び警防査察の実施に関すること。
- (7) 署員及び団員の訓練に関すること。
- (8) 消防水利及び地理調査に関すること。
- (9) 防火対象物の訓練指導に関すること。
- (10) 防火協力団体等の指導育成に関すること。
- (11) 気象、防災情報及び火災警報等に関すること。
- (12) 応急手当の普及に関すること。
- (13) 空地及び空家の管理指導に関すること。
- (14) 住宅等の火災予防に関すること。
- (15) 消防資機材の出納及び保管に関すること。
- (16) その他消防業務の実施に関すること。

<分遣所>

- (1) 受付事務に関すること。
- (2) 火災、救急、救助、風水害等の災害活動に関すること。
- (3) 火災その他の災害の警戒に関すること。
- (4) 防火広報、予防及び警防査察の実施に関すること。
- (5) 消防水利及び地理調査に関すること。
- (6) 防火対象物の訓練指導に関すること。
- (7) 防火協力団体等の指導育成に関すること。
- (8) 応急手当の普及に関すること。
- (9) 空地及び空家の管理指導に関すること。
- (10) 住宅等の火災予防に関すること。
- (11) その他消防業務の実施に関すること。

4 消防庁舎・分遣所・詰所（車庫含む。）の状況

(1) 消防本部（署）・分遣所

所管	所在地	構造	敷地面積㎡	建築面積等㎡	建築年月
消防本部 消防署	昭和通 133番地1	鉄筋コンクリート造 2階建	1,603.54	庁舎建築面積 618.80 庁舎延面積 1,020.76 訓練塔(5階建)延 80.0	着工 S58.7.27 竣工 S59.3.20 増改築 H4.10.22
いちき 分遣所	大里 11番地2	鉄筋コンクリート造 2階建	3,160.00	庁舎建築面積 301.62 庁舎延面積 414.32 訓練塔 25.00	完成 S57.9.28 増改築完成 H11.3.3 完成 H14.11.20

(2) 消防団

所管	所在地	構造	敷地面積㎡	建築面積等㎡	建築年月
中央分団	旭町 1番地2	鉄筋コンクリート造 2階建	227.02	建築面積 69.08 延面積 118.28	H5.3
本浦分団	西浜町 1番地2	鉄筋コンクリート造 2階建	165.29	建築面積 52.79 延面積 86.00	H12.3
照島分団	東島平町 417番地1	鉄筋コンクリート造 2階建	167.65	建築面積 64.71 延面積 120.08	H8.3
羽島分団	羽島 5,218番地	鉄筋コンクリート造 2階建	羽島コミュニ ティセン ター敷地内	建築面積 89.25 延面積 120.74	H9.3
	(土川班) 羽島 9,675番地	鉄筋コンクリート造 平屋建		建築面積 40.80 床面積 40.80	S54.3
荒川分団	荒川 2,450番地	鉄筋コンクリート造 平屋建	小学校敷地内	建築面積 72.00 床面積 72.00	H6.3
旭分団	金山 14,103番地15	鉄骨造平屋建	旭コミュニ ティセン ター敷地内	建築面積 72.00 床面積 72.00	H7.2
生福分団	生福 6,660番1	鉄筋コンクリート造 2階建	452.33	建築面積 72.96 延面積 130.08	H17.3
冠岳分団	冠岳 12,984番地2	鉄筋コンクリート造 2階建	231.38	建築面積 37.50 延面積 75.00	H7.3
資材倉庫	東島平町 26番地 (旧照島分団車庫)	鉄骨スレート造 平屋建	129.80	建築面積 62.65 延面積 62.65	S50.9
湊分団	湊町 1丁目252番地	鉄筋コンクリート造 2階建	1,128.79 のうち一部	建築面積 81.52 延面積 136.80	S58.3
川南分団	大里 705番地11	鉄骨造H型 2階建	230.57	建築面積 53.38 延面積 106.76	S61.12
川北分団	大里 5,631番地	鉄骨造 2階建	595.31	建築面積 53.535 延面積 107.07	H4.12
川上分団	川上 1,171番地	鉄骨造H型 2階建	1,505.02 のうち一部	建築面積 48.19 延面積 96.38	S62.11

5 平成28年度の主な行事

4月	7日	平成28年度県下消防長会春季総会（さつま町リゾート京セラ）
	8日	第39回県下消防職員意見発表会（さつま町リゾート京セラ）
	14日	第1回消防幹部会議（消防本部会議室）
5月	11日	第2回消防幹部会議（消防本部会議室）
	15日	消防団員初任者研修会（消防本部会議室他）
6月	16日～7月15日	ウミガメ保護監視パトロール（市来地域の4分団）
7月	10日	第6回市消防団消防操法大会（公設地方卸売市場駐車場）
	31日	平成28年度日置支部消防操法大会（公設地方卸売市場駐車場）
8月	26日	第31回県消防操法大会（県消防学校）
9月	9日	集団災害事故救急訓練（いちき分遣所訓練場）
	15日	消防職員委員会（消防本部会議室）
	15日～16日	県消防協会日置支部支部長、団長研修会(北九州市他)
10月	14日	第3回消防幹部会議（消防本部会議室）
	17日	市消防連合後援会視察（熊本市）
	21日	県石油コンビナート等総合防災訓練（串木野国家石油備蓄基地）
11月	5日～6日	平成28年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（雲仙市）
	9日	救助工作車運用開始式
	9日～15日	秋季火災予防運動
	13日	いちき串木野市総合防災訓練（旭地区）
	22日	防火管理協会及び危険物安全協会合同研修視察（鹿児島市）
12月	2日	第4回消防幹部会議（消防本部会議室）
	12日	警察・海保・消防合同年末年始特別警戒出発式（串木野漁港）
	28日	消防団年末夜警の市長等巡視
	28日～29日	消防団年末夜警（市内全域）
1月	8日	平成29年消防出初式（いちきアクアホール）
2月	4日	第9回女性消防団員研修会（いちき串木野市）
	9日	第5回消防幹部会議（消防本部会議室）
	25日～26日	消防団分団長以上幹部研修視察（長崎県他）
3月	1日～7日	春季火災予防運動

6 消防予算

(1) 平成28・29年度消防予算（当初予算）

（単位：千円）

款・項・目	節	平成28年度	平成29年度	比較増減
9. 消防費		645,032	606,610	△ 38,422
1. 消防費		645,032	606,610	△ 38,422
	1. 常備消防費	541,559	479,621	△ 61,938
	給料	191,795	190,589	△ 1,206
	職員手当等	130,089	132,108	2,019
	共済費	69,809	64,642	△ 5,167
	賃金	0	0	0
	旅費	1,797	2,368	571
	需用費	12,859	11,381	△ 1,478
	役務費	4,288	3,856	△ 432
	委託料	680	1,050	370
	使用料及び賃借料	519	505	△ 14
	原材料費	38	37	△ 1
	備品購入費	125,100	69,400	△ 55,700
	負担金、補助及び交付金	3,593	3,476	△ 117
	補償、補填及び賠償金	1	1	0
	公課費	991	208	△ 783
	2. 消防団費	73,984	66,231	△ 7,753
	報酬	13,162	13,162	0
	共済費	6,376	6,370	△ 6
	災害補償費	1,513	1,513	0
	報償費	8,816	8,388	△ 428
	旅費	27,463	23,866	△ 3,597
	需用費	9,551	5,376	△ 4,175
	役務費	869	1,286	417
	使用料及び賃借料	268	93	△ 175
	原材料費	13	12	△ 1
	備品購入費	4,853	4,989	136
	負担金、補助及び交付金	843	774	△ 69
	補償、補填及び賠償金	1	1	0
	公課費	256	401	145
	3. 消防施設費	2,823	25,761	22,938
	賃金	0	0	0
	需用費	816	1,881	1,065
	役務費	15	15	0
	委託料	231	10,354	10,123
	使用料及び賃借料	6	4	△ 2
	工事請負費	0	11,800	11,800
	原材料費	18	17	△ 1
	備品購入費	600	450	△ 150
	負担金、補助及び交付金	1,137	1,240	103
	4. 水防費	94	84	△ 10
	5. 災害対策費	26,572	34,913	8,341

(2) 市総予算と消防予算（当初予算）

(単位：千円)

区分 年度別	市 総 予 算	消 防 予 算	割 合 (%)	消 防 予 算 内 訳									
				常 備 消 防 費	割 合 (%)	消 防 団 費	割 合 (%)	消 防 施 設 費	割 合 (%)	水 防 費	割 合 (%)	災 害 対 策 費	割 合 (%)
24	14,564,000	549,892	3.8	445,974	81.1	84,595	15.4	2,397	0.4	100	0.02	16,826	3.1
25	15,498,000	520,324	3.4	398,774	76.6	84,188	16.2	15,592	3.0	97	0.02	21,673	4.2
26	15,367,000	851,156	5.5	433,015	50.9	93,149	10.9	305,737	35.9	98	0.01	19,157	2.3
27	15,429,000	563,163	3.7	465,177	82.6	69,193	12.3	5,126	0.9	96	0.02	23,571	4.2
28	15,140,000	645,032	4.3	541,559	84.0	73,984	11.5	2,823	0.4	94	0.01	26,572	4.1

(3) 消防予算と人口・世帯数との比較（当初予算）

年度	消防予算(円)	住民一人当たりの 消防費 (円)	一世帯当たりの 消防費 (円)	人 口 (人)	
				世 帯 数	
24	549,892,000	18,008	40,942	30,536	
				13,431	
25	520,324,000	17,179	38,709	30,288	
				13,442	
26	851,156,000	28,459	63,424	29,908	
				13,420	
27	563,163,000	19,110	41,877	29,470	
				13,448	
28	645,032,000	22,177	48,029	29,086	
				13,430	

7 人事・教養

(1) 消防職員の配置状況

(H29. 4. 1現在)

区 分 階 級	実 員	消 防 本 部								消 防 署			分 遣 所		
		消 防 長	次 長	課 長	総 務 係	予 防 係	危 険 物 係	救 急 係	警 防 係	署 長	第 一 部 隊	第 二 部 隊	分 遣 所 長	第 一 部 隊	第 二 部 隊
司令長	1	1※													
司 令	11			3※	1※	1※ 1		1	1※	1※	1	1		1	1
司令補	10				1		1	1	4		4	4		1	1
士 長	17				2	3	4	1	6		7	7		2	1
副士長	1														1
消防士	8				1			2	3		3	3		1	1
その他	0														
合 計	48	1		3	5	5	5	5	14	1	15	15		4	4

注 ※印は日勤者 ※分遣所長は第1部隊長兼務

(2) 消防職員の年齢

(H29. 4. 1現在)

年 齢 階 級	20 歳 未 満	20 歳 ～ 24 歳	25 歳 ～ 29 歳	30 歳 ～ 34 歳	35 歳 ～ 39 歳	40 歳 ～ 44 歳	45 歳 ～ 49 歳	50 歳 ～ 54 歳	55 歳 ～ 59 歳	60 歳 以 上	合 計	平 均 年 齢
司 令 長									1		1	59.0
司 令							2	4	5		11	54.6
司 令 補						1	6	3			10	47.4
士 長				1	3	8	4	1			17	41.4
副 士 長					1						1	36.0
消 防 士	1	2	4	1							8	25.8
そ の 他											0	
合 計	1	2	4	2	4	9	12	8	6		48	43.4

(3) 消防職員の勤続年数

(H29.4.1現在)

階級	勤続年数	5年未満	5年 ～ 9年	10年 ～ 14年	15年 ～ 19年	20年 ～ 24年	25年 ～ 29年	30年 ～ 34年	35 年 以上	合 計
司令長									1	1
司令								5	6	11
司令補						4	5	1		10
士長			1	9	2	3	2			17
副士長			1							1
消防士		3	4	1						8
その他										0
合計		3	6	10	2	7	7	6	7	48

(4) 消防職員研修状況

(H29.4.1現在)

年度別		平成23年 度以前の 実績	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	計
消防 大学 校	救 助 科	1						1
	警 防 科	1						1
	火災調査講習会	2						2
	新任消防長・学校長科		1					1
消 防 学 校	初 任 科	49	1				1	51
	救 急 I 課 程	21						21
	救 急 II 課 程	14						14
	救 急 標 準 課 程	9						9
	救 急 科	13	3	2	2			20
	気管挿管講習	8						8
	救 助 科	17	2	2	2		1	24
	警 防 科	3						3
	予 防 科 (課 程)	7						7
	査 察 課 程	1						1
	予 防 査 察 科 (課 程)	4		1				5
	火 災 調 査 科 (課 程)	8	1		1		1	11
	初 級 幹 部 科	4		1		1		6
	中 級 幹 部 科	3	1		1			5
無 線 科	1						1	
職 員 指 導 員 科	2						2	
梯 子 車 研 修	4						4	
処 置 拡 大 追 加 講 習						1	1	
九州 研 修 所	救 急 救 命 士 研 修	10	1	1	1	1	1	15
	薬 剤 投 与 追 加 講 習	8						8
	気 管 挿 管 講 習	8						8
	指 導 救 命 士 養 成 研 修	1				1	1	3
	処 置 拡 大 追 加 講 習						1	1
薬 剤 投 与 病 院 実 習	8						8	
気 管 挿 管 病 院 実 習	6	1	1	1	1		10	
開 海 発 洋 機 研 究	潜 水 業 務 管 理 研 修	2						2
	潜 水 技 術 特 別 研 修	1						1
	潜 水 技 術 指 導 研 修	1						1
消防救急緊急自動車運転技能者研修	1						1	
九州地区(警防/予防)実務研修	2					1	1	4
合 計		220	11	8	8	5	8	260

8 消防団

(1) 消防分団所轄区域、定員及び幹部名

(H29.4.1現在)

分団 区分	団 本 部	本 部 付 団 員	中	本	照	羽	荒		生	冠		川	川	川	合
			央	浦	島	島	川	旭	福	岳	湊	南	北	上	計
団 長	1														1
副団長	2														2
分団長			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
副分団長			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
部 長			4	2	3	4	2	2	3	2	2	2	2	2	30
班 長			6	4	5	6	4	4	5	4	4	4	4	4	54
団 員		6	19	10	17	20	7	10	10	7	12	11	8	10	147
実 員	3	6	31	18	27	32	15	18	20	15	20	19	16	18	258
定 員	3	10	35	21	27	32	20	20	25	20	22	21	21	20	297
所 轄 区 域			串 木 野 地 区 (本浦分団区域を除く。)	本 浦 地 区	照 島 地 区	羽 島 ・ 土 川 地 区	荒 川 地 区	旭 地 区	生 福 地 区	冠 岳 地 区	湊 ・ 湊 町 地 区	大 里 の う ち 川 南 地 区	大 里 の う ち 川 北 地 区	川 上 地 区	
世帯数			4,630	1,162	2,600	857	153	280	650	137	1,241	631	749	261	13,351
人 口			10,161	2,306	5,529	1,724	321	540	1,526	225	2,768	1,269	1,688	512	28,569
団 長	副団長		分 団 長												
大 迫 修 藏	西 村 博 孝	西 ノ 園 隆	(女性消防団員) 西 田 憲 一	白 石 英 巳	石 川 一 仁	福 永 茂 幸	東 幸 基	竹 之 下 直 正	大 六 野 弘 行	松 下 進	前 田 浩 幸	内 匠 康 義	池 田 郁 郎	鹿 丸 滋 樹	

(2) 消防団員の勤続年数

(H29. 4. 1現在)

階級 \ 勤務年数	5年未満	5年～9年	10年～14年	15年～19年	20年～24年	25年～29年	30年～34年	35年以上	合計
団長								1	1
副団長					1			1	2
分団長						3	2	7	12
副分団長	1				2	2	5	2	12
部長				6	8	9	4	3	30
班長		3	9	13	21	6	2		54
団員	56	46	21	16	4	2	1	1	147
合計	57	49	30	35	36	22	14	15	258

(3) 消防団員の年齢

(H29. 4. 1現在)

階級 \ 年齢	24歳以下	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上	合計	平均年齢
団長										1	1	74.0
副団長								1		1	2	61.5
分団長							1	4	1	6	12	63.0
副分団長								2	5	5	12	63.0
部長					3	1	5	7	7	7	30	58.2
班長			1		11	11	7	9	13	2	54	52.3
団員	9	10	26	25	26	19	10	11	5	6	147	50.0
合計	9	10	27	25	40	31	23	34	31	28	258	47.8

(4) 消防団員出場状況

(H28年度)

出場区分		分団別															合計
		団本部	中央	本浦	照島	羽島	荒川	旭	生福	冠岳	湊	川南	川北	川上	女性団員		
火災等災害	火災	回数	4	4	4	4	0	0	1	0	0	1	1	1	2	0	22
		人員	12	67	39	41	0	0	8	0	0	10	19	13	16	0	225
	風水害等の災害	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	13
		人員	3	26	17	22	28	14	18	20	16	19	17	16	15	0	231
	小計	回数	5	5	5	5	1	1	2	1	1	2	2	2	3	0	35
		人員	15	93	56	63	28	14	26	20	16	29	36	29	31	0	456
演習訓練等	演習訓練	回数	17	39	26	27	38	27	29	29	28	26	36	24	37	2	385
		人員	45	352	225	230	359	153	187	236	168	232	254	201	302	12	2,956
	その他	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	回数	17	39	26	27	38	27	29	29	28	26	36	24	37	2	385
		人員	45	352	225	230	359	153	187	236	168	232	254	201	302	12	2,956
その他の	広報指導	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	警防調査等	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特別警戒	回数	2	3	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	29
		人員	6	50	36	52	49	22	33	41	28	38	36	32	32	6	461
	捜索	回数	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
		人員	6	6	2	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
	その他	回数	19	16	15	15	13	14	12	20	13	14	14	13	17	15	210
		人員	49	60	46	53	66	24	42	58	39	32	46	26	44	53	638
	小計	回数	23	20	18	19	16	16	14	22	15	16	16	15	19	17	246
		人員	61	116	84	110	123	46	75	99	67	70	82	58	76	61	1,128
合計	延回数	45	64	49	51	55	44	45	52	44	44	54	41	59	19	666	
	延人員	121	561	365	403	510	213	288	355	251	331	372	288	409	73	4,540	

(5) 消防団員の報酬等

(単位：円)

区分		階級						
		団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
報酬	年報酬	143,200	92,500	84,400	46,700	42,700	41,200	39,700
	技術報酬	消防ポンプ車等の機関員 年額15,000 小型動力ポンプ機関員 年額10,000						
費用弁償	災害・訓練等出動手当	1回1人 5,100						

9 いちき串木野市消防連合後援会

(H29.4.1現在)

後援会(部)名	会(部)長	役職名
中央分団後援会	鮫島 功	
本浦分団後援会	福岩 宏基	監事
照島分団後援会	濱涯 龍也	会長
れいめい羽島協議会消防後援部	新村 正廣	
荒川地区まちづくり協議会消防後援部	富宿 徹	
旭地区まちづくり協議会消防後援部	山下 二直男	副会長
生福分団後援会	木場 與一郎	
冠岳地区まちづくり協議会消防後援部	田代 信義	
湊分団後援会	福ヶ野 和男	副会長
川南分団後援会	濱田 米夫	監事
川北分団後援会	石神 斉也	
川上分団後援会	古川 清行	

10 表彰 (平成28年度)

(1) 消防庁長官表彰

- 永年勤続功労章
(副団長) 大迫 修藏

(2) 日本消防協会会長表彰

- 勤続章
(照島) 石川 一仁
(照島) 江口 義壽
(中央) 馬込 達也
(羽島) 松寄 幹夫

(3) 鹿児島県知事表彰

- 40年勤続章
(川南) 内匠 康義
- 10年勤続章
(生福) 井上 拓也
(川上) 逆瀬 川亨
(川北) 吉村 義治
(本浦) 森田 裕司
(湊) 白石 貴史
(中央) 横路 心
(照島) 西田 繁
(中央) 田代 聡哉
(照島) 新村 和哉
(照島) 小屋 友博
(川北) 武田 正人

(4) 鹿児島県消防協会総裁表彰

- 功績章
(荒川) 鮫島 和光
(川北) 西中間 俊和
(中央) 西田 憲智
(中央) 横須 新一
(照島) 西良 一二
(照島) 坂口 和徳
(照島) 新村 義実
(旭) 新屋 敷晶
(旭) 龍 蘭誠

○ 精績章

- (荒川) 古園 辰也
- (旭) 今藤 正弘
- (本浦) 竹中 昭彦
- (照島) 榎木 成徳
- (照島) 海田 健一
- (羽島) 川口 勝志
- (羽島) 川畑 博一
- (川南) 徳重 庄作

(5) 鹿児島県消防協会日置支部長表彰

- 15年勤続章
(生福) 生野 英明
(川北) 藤田 光昭
(冠岳) 岩下 浩三
(中央) 中野 徳夫
(羽島) 安藤 強
(羽島) 中島 典幸
(羽島) 坂口 雄介
(旭) 市来 栄光
(冠岳) 藤脇 政盛

(6) いちき串木野市長表彰

- 10年勤続章
(川北) 吉村 義治
(生福) 池田 功夫
(照島) 新村 和哉
(照島) 小屋 友博
(川北) 武田 正人
(川北) 新村 真
(川上) 宇都口 和美
(川上) 有川 亨

(7) いちき串木野市長感謝状

- 20年以上勤続団員の奥様
(荒川) 鮫島 千代
(中央) 西田 みゆき
(中央) 横須 保江
(照島) 西 新子
(照島) 坂口 留利子
(旭) 新屋 敷智子

Ⅲ 予防・危険物

防火対象物数（法第17条）・・・・・・・・ 1, 148

危険物施設数（法第11条）・・・・・・・・ 140

1 防火対象物の状況

多数の人が利用する建築物は、火災が発生した場合人命危険が大きいため、一定規模以上の建築物については、防火管理者の選任及び消火設備、警報設備、避難設備などの消防用設備等の設置と維持管理が消防法で義務付けられている。(H29.3.31現在)

対 象 物 別		区 分	対象物数 (150㎡以上)	防火管理者 が必要な対 象物数 (150㎡未満 を含む)	定期点検が 必要な対象 物数
1 項	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場	2	2	2
	ロ	公会堂、集会場	19	18	10
2 項	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブの類			
	ロ	遊技場、ダンスホール	5	2	4
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等			
	ニ	カラオケボックス等	1	1	
3 項	イ	待合、料理店の類			
	ロ	飲食店	18	21	
4 項		百貨店、マーケット、展示場の類	47	33	5
5 項	イ	旅館、ホテル、宿泊所の類	7	4	2
	ロ	寄宿舎、下宿、共同住宅	192	14	
6 項	イ	病院、診療所、助産所	30	14	
	ロ	老人福祉施設等（入所施設）	16	14	
	ハ	保育所、老人デイサービスセンター等	29	17	
	ニ	幼稚園、特別支援学校	20	5	1
7 項		小・中・高・大学各種学校の類	87	16	
8 項		図書館、博物館、美術館の類	3	3	
9 項	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場の類			
	ロ	上記以外の公衆浴場	2	1	
10 項		車両の停車場又は船舶、航空機の発着場	1		
11 項		神社、寺院、教会の類	6	4	
12 項	イ	工場、作業場	169	7	
	ロ	映画スタジオ、テレビスタジオ			
13 項	イ	自動車車庫、駐車場	26		
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫			
14 項		倉庫	116		
15 項		前各項に該当しない事業場	170	22	
16 項	イ	特定防火対象物が存する複合用途対象物	112	48	5
	ロ	上記以外の複合用途対象物	69	9	
16の2 項		地下街			
16の3 項		準地下街			
17 項		重要文化財の類			
18 項		延長 50m以上のアーケード	1		
合 計			1,148	255	29

2 防火対象物階層別状況（4階以上・棟数）

（H29.3.31現在）

令別表第一区分		4階	5階	6階	10階	合計
5項	イ 旅館・ホテル等	1 湊町 1				1
	ロ 共同住宅・寄宿舎等	40 中央 11 本浦 5 照島 10 羽島 1 川北 5 湊町 4 湊 4	15 中央 1 照島 13 湊町 1			55
6項	イ 病院・診療所等	5 中央 1 照島 3 湊町 1				5
	ロ 主として要介護状態にある者又は重度障害等が入所する施設	1 川南 1	1 中央 1			2
	ハ 老人福祉施設、地域活動支援センター等				1 中央 1	1
7項	小学校・中学校・高等学校・大学、各種学校等	3 照島 3	2 照島 2			5
12項	イ 工場又は作業場	2 中央 1 荒川 1				2
14項	倉庫	1 本浦 1				1
15項	前各項に該当しない事業場（事務所等）	4 中央 1 本浦 2 羽島 1				4
16項	イ 複合用途防火対象物（特定用途部分を含むもの）	10 中央 9 湊 1	1 中央 1	1 中央 1		12
	ロ 複合用途防火対象物（特定用途部分を含まないもの）	4 中央 4				4
合計		71	19	1	1	92
地区別	中央	27	3	1	1	32
	本浦	8				8
	照島	16	15			31
	羽島	2				2
	荒川	1				1
	川南	1				1
	川北	5				5
	湊	5				5
	湊町	6	1			7

3 建築同意事務等処理状況

(1) 建築同意状況

(H28年度)

対象物別 工事種別	対象物別														合 計
	一 項 口	三 項 口	六 項 イ (一)	六 項 ハ (一)	六 項 ハ (三)	六 項 ハ (四)	一 一	一 二 項 イ	一 三 項 イ	一 四	一 五	一 六 項 イ	専 用 住 宅	そ の 他	
新 築	1	2	2		1		1	3	2	3	4	1	7	3	30
増 築				1		1		2		1		1	1		7
改 築								1							1
修 繕								1							1
用 途 変 更												1			1
合 計	1	2	2	1	1	1	1	6	3	4	4	3	8	3	40

(2) 専用住宅建築確認通知状況

(H28年度)

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
件 数	4	11	8	18	8	19	9	7	7	8	3	12	114

4 消防用設備等設置検査実施状況

(H28年度)

対象物別 工事種別	対象物別																合 計	
	一 項 口	二 項 口	三 項 口	四	五 項 口	六 項 イ (一)	六 項 イ (二)	六 項 イ (三)	六 項 イ (四)	六 項 口 (一)	六 項 口 (五)	六 項 ハ (三)	六 項 ハ (四)	一 二 項 イ	一 三 項 イ	一 五		一 六 項 イ
消 火 器	1		1	2	1					1		1	6	1	2	2		18
屋 内 消 火 栓													1					1
スプリンクラー設備		1				1	1	1	2	1								7
自動火災報知設備	2		1	2				1		1		1	9	1		3		21
消防機関へ通報する 火災報知設備							1									1		2
非 常 警 報 設 備			1															1
避 難 器 具																	1	1
誘 導 灯	1		1	3				2	1	1	1	2				3	1	16
誘 導 標 識												3		1				4
パッケージ型消火器												2						2
合 計	4	1	4	7	1	1	2	1	3	2	4	1	3	23	2	3	10	73

5 消防法関係届出状況

(平成28年度)

区分 対象物別		防火管理者	防火管理者	消防計画	工事整備対象	消防用設備等 (特殊消防用設備等)	消防用設備等
		選任届	解任届	作成(変更)届	設備等着工届	設置届	点検結果報告
1 項	イ	1	1	1			4
	ロ	3	3	3		5	21
2 項	イ						
	ロ	6	6	7		1	6
	ハ						
	ニ				1	1	1
3 項	イ	1	1	1			
	ロ	1	1	2	2	4	13
4 項		12	11	12	4	6	40
5 項	イ	1	1	1	1		6
	ロ	1	1	1		1	27
6 項	イ				4	12	26
	ロ	5	5	5	4	2	22
	ハ	2	2	3	3	8	23
	ニ	1	1	1			2
7 項		4	4	4			17
8 項							2
9 項	イ						
	ロ	1	1	1			
10 項							1
11 項							2
12 項	イ				9	25	27
	ロ						
13 項	イ						2
	ロ						
14 項							6
15 項		5	5	5		2	27
16 項	イ	2	2	2	7	12	31
	ロ					1	4
16の2 項							
16の3 項							
17 項							
18 項							
19 項							
20 項							
合計		46	45	49	35	80	310

6 火災予防条例関係届出状況

(H28年度)

種別	月別												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
使用開始届け			4		3	2	2		1		2	2	16
炉					1								1
ボイラー		4			1		1		1				7
乾燥設備												1	1
変電設備			1		1						2		4
発電設備					2		1				1	1	5
蓄電池設備			1	1								1	3
水素ガス					1		2	1		1			5
改修計画	3	2	3	2	9	9	7	5	5	5	12	5	67
緩和願い			1				2		1	2	2		8
火災と紛らわしい		5	1		2	1	2	5	12	7	2	2	39
煙火打上げ・仕掛け					2								2
催物開催		1					1						2
道路工事	5	7	5	12	13	7	21	15	14	10	15	4	128
露店等の開設	4	1	1	4		4	4		2			2	22
禁止・危険行為解除承認	1												1
その他条例関係届出			1	1						1			3
合計	13	20	18	20	35	23	43	26	36	26	36	18	314

7 防火啓発状況

(H28年度)

方 法	対 象	回 数	備 考
広 報 車	市 内 全 域	6	春・秋火災予防運動期間中 又は火災気象通報発表時 等の防火上警戒を要する 時に実施
防 災 行 政 無 線	市 内 全 域	17	
広報くしきの(おしらせ版)	市 内 全 家 庭	5	
防 火 ポ ス タ ー 配 布	市 内 各 事 業 所 等	7	
避 難 訓 練 等 指 導	各公民館・各事業所等	185	各公民館、各事業所等から の依頼で実施
防 火 ・ 防 災 座 談 会	各公民館・各事業所等	9	各種会合時、又は公民館等 からの依頼で実施

8 危険物施設の状況

(H29.3.31現在)

施設区分 倍数別	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所				合 計
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所	
5倍以下	1	6	5		12		15	1	1			11	52
5倍を越え 10倍以下			4	1	4		2	1	6			9	27
10倍を越え 50倍以下	1		16		4				10			5	36
50倍を越え 100倍以下		1	2						5				8
100倍を越え 150倍以下					1				2				3
150倍を越え 200倍以下									3				3
200倍を越え 1000倍以下			2						1		1		4
1000倍を越えるもの			6								1		7
合 計	2	7	35	1	21		17	2	28		2	25	140

9 危険物関係許可・検査処理状況

(H28年度)

種 別	施設区分	製 造 所	貯 蔵 所						取 扱 所				計	
			屋 内	屋 外 タン ク	屋 内 タン ク	地 下 タン ク	簡 易 タン ク	移 動 タン ク	屋 外	給 油	販 売	移 送		一 般
設 置 許 可														
変 更 許 可				1								1		2
完 成 検 査				1						1		1		3
水 圧 ・ 水 張 検 査														
仮使用（貯蔵取扱）承認														
岩盤タンク定期保安検査														
計				2						1		2		5

10 危険物施設の立入検査状況

(H28年度)

施 設 別	実 施 施 設 数	立 入 検 査 延 回 数
製 造 所	2	2
屋 内 貯 蔵 所	5	5
屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	28	28
屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	1	1
地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	19	19
簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所		
移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	20	20
屋 外 貯 蔵 所	1	1
給 油 取 扱 所	27	27
販 売 取 扱 所		
移 送 取 扱 所	2	2
一 般 取 扱 所	18	18
計	123	123
少量危険物貯蔵取扱所	41	41

11 液化石油ガス等の保安指導状況

(1) 届出の義務

消防法第9条の3では、火災予防又は消火活動に重大な支障を生ずるおそれのある圧縮アセチレンガス、液化石油ガスその他の物質（毒物、劇物等）を政令で指定し、一定以上の貯蔵又は取扱いをする場合、消防長等に届け出ることを義務づけている。

(2) 消防機関の対応

この届出に対し、消防機関は先ず、火災予防措置として査察指導を行い、火災発生の未然防止を図り、次に万一の火災発生時において、これらの物質から発生する特異かつ重大な危険が付近住民に波及することを防止し、かつ消火活動にあたる消防職員に対する危害を防止するための対策に役立てることを狙いとする。

(3) 液化石油ガス施設等の現況

(H29.4.1現在)

物 質	数 量	貯蔵・取扱施設数	備 考
液 化 石 油 ガ ス	3 0 0 kg 以上	2 1 0	
圧縮アセチレンガス	4 0 kg 以上	3	
シアン化ナトリウム	3 0 kg 以上	1	毒 物
硫 酸	2 0 0 kg 以上	2	劇 物

12 串木野国家石油備蓄基地の概要及び現況

(1) 概 要

位 置：いちき串木野市西薩町1番地及び北部丘陵地
備 蓄 方 式：常圧貯蔵横穴水封固定水床式
面 積：貯油施設地区26ha（投影）地上施設地区5ha
貯蔵許可数量：1,740,874.4kL（約175万kL）
類 別・品 名：第4類 第1石油類（原油）
地 下 貯 油 槽（岩盤タンクに係る屋外タンク貯蔵所）
形 状：卵型（高さ22m × 幅18m × 長さ555m）10基
水封トンネル：3本
地上荷役施設：操油設備・用役設備・電気計装設備・公害防止設備・安全防災設備・管理施設等
海上荷役設備：10万DWT級一点係留浮標式係留設備1基・海底原油配管2,300m
危険物の移送量：受け入れ時 120,000kL/日
払い出し時 96,000kL/日
他の危険物施設：屋外タンク貯蔵所 7 地下タンク貯蔵所 1
屋内貯蔵所 1 一般取扱所 6 移送取扱所 2
石油コンビナート等特別防災区域指定：平成4年8月28日
串木野基地起工：昭和62年3月31日
備蓄原油総量：約168万kL



(2) 現 況

ア 労働無災害時間記録を継続中

平成29年3月31日 300.8万時間

イ 平成28年度 消防立入検査

下記の定期消防立入検査において書類審査、現地審査が実施されました。平成29年2月21日の危険物施設年次立入検査においてサービストンネル内に設置された防火扉の一部に腐食及び穿孔、不作動が確認されましたが、直ちに応急処置と修理を行い3月21日には消防現地立会いの下、機能が維持できていることが確認されました。その他パトロール・立入検査では問題のない事が確認されました。

- ・特定防災区域内巡回パトロール実施（5/20, 8/19, 11/22, 2/17）
- ・岩盤関係定期消防立入検査 実施（4/21, 7/19, 10/20, 2/21）
- ・危険物施設年次立入検査 実施（2/21）

ウ 鹿児島県石油コンビナート等総合防災訓練の実施

鹿児島県石油コンビナート等防災計画に基づき、平成28年10月21日（金）に総合防災訓練を実施しました。

訓練参加者

鹿児島県、県防災航空センター、いちき串木野市、いちき串木野市消防本部、いちき串木野警察署など12機関。消防車、パトカーなど計17台。総勢約160名。

訓練想定

- ① 2つの地震発生を想定。甕島列島東方沖を震源とする震度6弱の地震が発生し、大津波警報が発令、緊急避難する。浸水深30cm未満を想定。(県想定)次にタンカーから原油揚荷作業中に市来断層帯を震源とする震度7の地震が発生、津波による影響なしの想定で、原油揚荷を緊急停止する。地震の影響に伴い施設内において原油受払い設備のエアークレナイター101B上流フランジより油が漏洩し、漏れた油に何らかの原因で着火、火災が発生。
- ② TK-101 堅坑上部室内でガスが発生し、作業中の事業所員2名中1名が酸欠及び転倒時に足を骨折した。(地上部でTK-101 堅坑上部室内を想定した救出・救護訓練)

訓練項目

- ①緊急避難訓練②異常処置訓練③緊急通報訓練④交通規制訓練⑤災害情報広報訓練⑥自衛防災本部設置訓練⑦現場指揮本部設置訓練⑧救出・救護訓練⑨土のう構築訓練⑩被害情報収集・伝達訓練⑪救急搬送訓練⑫初期消火訓練⑬消火延焼防止訓練

訓練時間 10:00～11:30

【訓練風景】



自衛防災班集結



現場指揮本部設置



土のう構築訓練



救出訓練

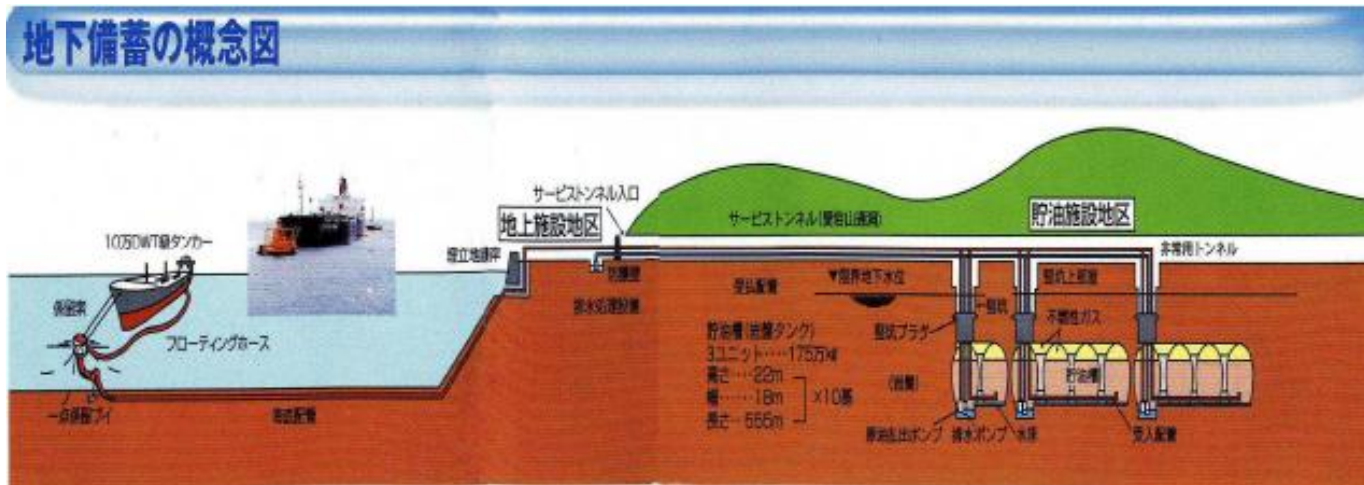


一斉放水



講評する現地防災本部長
(いちき串木野市長)

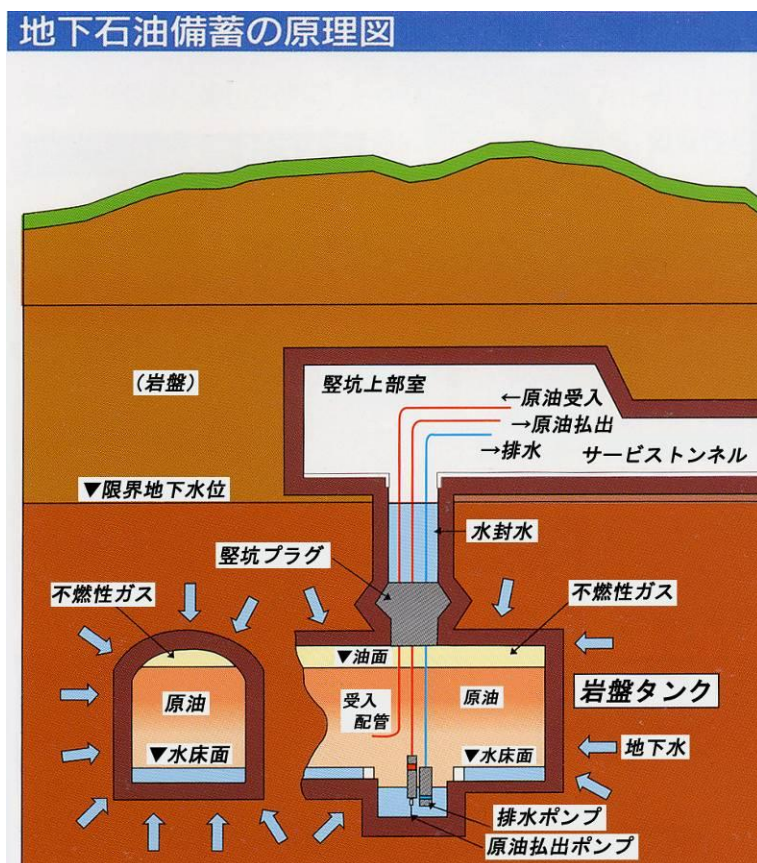
【地下岩盤タンクのしくみと水封式地下備蓄の原理】



水封式地下石油備蓄とは、地下水水面下の岩盤内に空洞を掘ってそこに原油を貯蔵する方式です。自然の地下水に加え、一部水封トンネルから水を供給して空洞の周りの水圧を貯蔵された原油の圧力より高くすることによって、漏油、漏気を防止するシステムです。

岩盤タンクの水床の上に原油を貯めます。岩盤タンクにしみ出た地下水は、底水排水槽から排水ポンプにより排出されます。

地下石油備蓄の原理図



13 消防協力団体の結成状況（H29.4.1現在）

(1) いちき串木野市幼少年婦人防火委員会

◎ 結成年月日 昭和55年 5月 1日

◎ 目的

当委員会は、防火・防災に対する地域住民の理解と協力を得るため、その推進の中核となるクラブ等の結成、促進並びに育成強化を図ることを目的とする。

(委員名簿)

役 職 名	氏 名	所 属
会 長	前 屋 満 治	いちき串木野市消防長
委員 (監事)	大 迫 修 藏	いちき串木野市消防団長
委 員	塩 屋 か よ 子	照島地区婦人防火クラブ会長
〃	岩 下 尚 功	羽島保育園幼年消防クラブ会長
〃	神 村 慎 二	神村学園附属幼稚園幼年消防クラブ会長
〃	井 上 恒 夫	くしきの森のこども園幼年消防クラブ会長
〃	桃 北 紀 和	市来幼稚園幼年消防クラブ会長
〃	島 津 知 道	串木野保育園幼年消防クラブ会長
事 務 局	藏 菌 進 矢 奥 之 園 勝	いちき串木野市消防本部 予防課予防係主任 〃 〃

(2) 幼年消防クラブ

◎ 目的

幼年期に消防の研修を行い、火に対する正しい認識を身につけさせ、園及び各家庭の火災の予防を図るとともに、将来、人命を尊重し、財産の保全を図る社会人としての素地をかん養することを目的とする。

名 称	結 成 年 月 日	人 員
羽島保育園幼年消防クラブ	昭和60年5月20日	80名
会 長 岩 下 尚 功	副会長 大 神 光 恵	
市来幼稚園幼年消防クラブ	昭和62年5月23日	61名
会 長 桃 北 紀 和	副会長 井 出 拓 一	
神村学園附属幼稚園幼年消防クラブ	平成2年7月16日	169名
会 長 神 村 慎 二	副会長 川 寄 秀 弥	
くしきの森のこども園幼年消防クラブ	平成6年2月19日	113名
会 長 井 上 恒 夫	副会長 井 上 弘 顕	
串木野保育園幼年消防クラブ	平成28年7月4日	72名
会 長 島 津 知 道	副会長 福 田 あ ゆ み	

(3) 婦人防火クラブ

◎ 目的

家庭における火災の防止及び地域ぐるみの自主防災体制の確立が図られるよう初期消火等の訓練及び防火研修などを実施し、防火安全体制の確立を図ることを目的とする。

名 称	結 成 年 月 日	人 員
照島地区婦人防火クラブ	昭和52年7月23日	1,200名
会 長 塩 屋 か よ 子	副会長 奥 み ち よ	

(4) 防火管理協会

◎ 目的及び事業

災害予防対策の研究及び消防思想の普及発達に寄与することを目的とし、併せて会員相互の連絡親睦を厚くし、次の事業を行うものとする。

- ア 消防思想の普及高揚及び災害発生時における会員相互の応援業務
- イ 防火消防諸施設の視察研究
- ウ 自衛消防の強化促進
- エ 各種災害の予防対策の研究
- オ 消火器の維持管理の指導及び検査
- カ 優良事業所及び会員の表彰に関する事。
- キ 会員の弔慰見舞に関する事。
- ク その他本会の目的達成上必要と認めた事業

名 称	発 会 年 月 日	加 入 事 業 所 数
いちき串木野市防火管理協会	平成18年5月24日	124
会 長 溜 池 一 孝 副会長 西村博孝・吉尾逸郎		

(5) 危険物安全協会

◎ 目的及び事業

危険物保安対策の研究及び消防思想の普及宣伝並びに防火施設の拡充強化に寄与し、会員相互の融和親睦を図ることを目的として、次の事業を行うものとする。

- ア 消防関係、諸法規の周知徹底に関する事。
- イ 消防思想の普及宣伝に関する事。
- ウ 危険物及び高圧ガスに対する防火及び消防諸施設の視察並びに研究に関する事。
- エ 危険物取扱者の研修に関する事。
- オ 優良事業所及び優良従業員の表彰に関する事。
- カ 会員の弔慰に関する事。
- キ その他、本会の目的達成上必要と認めた事業

名 称	発 会 年 月 日	加 入 事 業 所 数
いちき串木野市危険物安全協会	平成18年5月26日	76
会 長 上 夷 慶 克 副会長 迫 直・平石 裕・有川 亨		

IV 火災・救急・救助

火災件数	11件
損害額	9,078千円
死者	1人
負傷者	1人
救急件数	1,251件
搬送人員	1,182人
救助件数	14件
救助人員	5人

平成28年中の火災発生状況(内訳)

(参考資料)

火災番号	月 日	発生場所	種 別	原 因	初期消火の有無	焼損棟数、り災世帯及び人員								建物焼損面積		林 野 その他	損害額	死者	負傷者
						全 焼		半 焼		部分焼		ぼ や		床面積 ㎡	表面積 ㎡	焼損面積			
						世帯	人員	世帯	人員	世帯	人員	世帯	人員						
1	2/11 15:25	市来中学校西側 吹上浜砂丘	その他	火遊び	有														
2	2/26 16:30	大里1261-1 島内運動公園 東側法面	林野	火入れ	有									2					
3	3/3 6:50	大里2968番 地1	建物 (爆発)	コンロ	有							0			534				
4	3/14 15:30	大里5464番 地2	建物	不明・調査中		1						134			11,764	1			
5	4/22 7:00	大里1001	建物	その他	有	1						1,395			175,088				
6	6/14 16:57	川上4297	車両	不明・調査中	有										1,000				
7	7/17 18:20	浜ヶ城 12426番地	建物	不明・調査中	有	2						132			18,982		2		
8	12/16 7:10	金山下13871 番地1	建物	不明・調査中	有	2					3	141			8,287	1			
合 計		建物: 5 件 林野: 1 件 車両: 1 件	船舶: 1 件 その他: 1 件 合計: 8 件			6 棟 住家 4 非住家 2	棟 住家 非住家	棟 住家 非住家	3 棟 住家 2 非住家 1			1,802	0㎡	林野 2 a その他 ㎡	千円 215,655	名 2	名 2		

※ ()は、爆発による件数等の再掲を示す。

2 火災統計

(1) 平成28年中の火災状況 (いちき串木野市・鹿児島県・全国)

区 分	いちき串木野市	鹿児島県 (概数)	全国 (概数)
火 災 件 数	8	604	36,773
建 物	5	332	20,964
林 野	1	25	1,029
車 両	1	58	4,041
船 舶		3	71
航 空 機			3
そ の 他	1	186	10,665
焼 損 棟 数	9	541	30,837
建 物 焼 損 床 面 積 (m ²)	1,802	22,248	1,016,395
建 物 焼 損 表 面 積 (m ²)		1,014	117,757
林 野 焼 損 面 積 (a)	2	283	38,428
り 災 世 帯 数	7	322	18,139
り 災 人 員	11	715	40,571
死 者	2	33	1,445
負 傷 者	2	90	5,859
損 害 額 (千 円)	215,655	1,395,159	89,427,493
建 物	214,121	1,177,503	
林 野		467	
車 両	1,000	90,390	
船 舶		119,993	
航 空 機			
そ の 他		6,166	
爆 発	534	640	

(2) 過去5年間の年別火災概要

区分 年	火災件数					焼損棟数					焼損面積			死傷者		り災世帯数			り 災 人員	損害額 (千円)		
	建物	林野	車両	船舶	その他	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	建物床面積 ㎡	建物表面積 ㎡	林野	死者	負傷者	全損	半損	小損			計	
平成24年	4				1	5	5			5	241			2		3			3	6	6,692	
平成25年	2	1			11	14	2	1		3	166	2	9	1	1	1			1	1	8,436	
平成26年	3	1	1		4	9	2	1		3	122		3			1	1	2	4	8	11,718	
平成27年	5	1			5	11	2	1		2	5	191		3	1	1		1	1	2	10	9,078
平成28年	5	1	1		1	8	6			3	9	1,802		2	2	2	4	1	2	7	11	215,655
合計	19	4	2		22	47	15	3	2	5	25	2,522	2	17	6	4	9	3	5	17	36	251,579

(3) 過去5年間の原因別火災発生件数

区分 年	たばこ	こんろ	かまど	風呂かまど	炉	ストーブ	電気機器	電気装置	電灯・電話等配線	配線器具	交通機関内配線	火あそび	たき火	溶接機・切断機	灯火	火入れ	放火	放火の疑い	その他	内燃機関	不明・調査中	計	
	平成24年			1			1										1						2
平成25年													7			2			1			4	14
平成26年							1						4		1							3	9
平成27年							1	1					4	1	2				1			1	11
平成28年		1										1				1			1			4	8
合計		1	1			1	2	1				1	15	1	7				3			14	47

(4) 過去5年間の月別火災発生件数

年 月	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	計
1				1		1
2		1	1	1	2	5
3			2		2	4
4	1			1	1	3
5		2	1	1		4
6			1		1	2
7		1		1	1	3
8		3		1		4
9		3		1		4
10	1	2		3		6
11	1	1	3			5
12	2	1	1	1	1	6
計	5	14	9	11	8	47

(5) 過去5年間の曜日別火災発生件数

年 月	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	計
日	1	4	3	1	1	10
月		1	1	2	1	5
火	1	2	1		1	5
水	1		1	2		4
木	1			2	2	5
金	1	1	1	2	3	8
土		6	2	2		10
不明						0
計	5	14	9	11	8	47

(6) 過去5年間の時刻別火災発生件数

年 時刻	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	計
0～1		1				1
1～2		1	1			2
2～3						0
3～4						0
4～5						0
5～6		2				2
6～7					1	1
7～8					2	2
8～9						0
9～10	3		1			4
10～11		2	2	1		5
11～12		1	2	2		5
12～13		1				1
13～14			2	2		4
14～15		3	1	2		6
15～16	2			2	2	6
16～17				1	2	3
17～18				1		1
18～19		2			1	3
19～20		1				1
20～21						0
21～22						0
22～23						0
23～24						0
不明						0
計	5	14	9	11	8	47

(7) 火災発生時の気象状況

(H 2 8 年 中)

気象状況		月												計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
天 気	快 晴													0
	晴		2	2	1		1	1					1	8
	曇													0
	雨													0
	雪													0
	不明													0
風 速 m/s	無風状態													0
	1～2				1									1
	2～3			1				1						2
	3～4		1				1							2
	4～5													0
	5～6		1										1	2
	6～7			1										1
	7～8													0
	8～9													0
	9～10													0
	不明													0
風 向	北													0
	北北東													0
	北東			1	1									2
	東北東													0
	東		1											1
	東南東													0
	南東													0
	南南東													0
	南													0
	南南西													0
	南西													0
	西南西						1							1
	西							1						1
	西北西													0
	北西													0
北北西		1	1									1	3	
不明													0	
湿 度 %	10～20													0
	20～30													0
	30～40													0
	40～50		2	1										3
	50～60													0
	60～70													0
	70～80												1	1
	80～90			1				1						2
	90～100				1		1							2
	不明													0

3 救急業務統計

(1) 救急業務の沿革

- S43.2 救急車1台(ニッサン・セドリック)を購入し、救急業務を任意で開始
- S44.9 消防法施行令の一部改正により本市の救急業務実施が義務化
- S44.12 市来町、東市来町と救急業務応援協定を締結 S57.9.30 破棄 (S57.10.日置地区消防組合発足に伴い、破棄)
- S45.4 川内市と救急業務相互応援協定を締結 (S56.5.破棄)
- S45.5 薩摩郡里村、鹿島村、上甕村、下甕村、樋脇町と救急業務応援協定を締結
- S48.2 S57.3.31.破棄 (S56.4.川内地区消防組合発足に伴い、破棄)
- S48.3 生命保険協会から救急車1台(ニッサン・シブリアン)の寄贈を受け救急車2台となる。
- S52.9 日本消防協会から救急車1台(ニッサン・キャバノン)の寄贈を受ける。
- S52.9 S43.2.購入の救急車(ニッサン・セドリック)を大隅曾於地区消防組合消防本部へ譲渡
- S56.2 日本自動車工業会から救急車1台(ニッサン・キャバノンハイム)の寄贈を受ける。
- S56.2 S48.3.生命保険協会からの寄贈車を廃車
- S56.5 川内地区消防組合と「消防及び救急業務応援協定」を締結 (H17.11.破棄)
- S57.10 日置地区消防組合と「消防及び救急業務応援協定」を締結 (H17.12.破棄)
- H元.2 救急車1台(トヨタ2000cc)を購入し、S52.9.日本消防協会からの寄贈車を廃車
- H2.1 コーアガス鹿児島(株)から救急車1台(トヨタ2000cc)の寄贈を受ける。
- H2.3 S56.2.日本自動車工業会からの寄贈車を運搬車に改造し、照島分団別府班に配置替え。(H7.2.廃車)
- H9.4 救急救命士第1号誕生
- H10.4 救急救命士2名となる。
- H11.4 救急救命士3名となる。
- H12.3 串木野市医師会と「救急救命士に対する医師の指示に関する協定」を締結
- H12.4 救急救命士4名となる。
- H12.11 高規格救急自動車(ニッサン・パラメティック3300cc)及び高度救命処置用資器材を購入
- H13.1 高規格救急自動車等による高度救急業務を開始
- H13.2 救急車1台(H元.2)を廃車
- H13.4 救急救命士5名となる。
- H13.12 救急車1台(トヨタ3400cc)を購入し、H2.1.コーアガス鹿児島(株)からの寄贈車を廃車
- H14.4 救急救命士6名となる。
- H15.4 救急救命士7名となる。
- H16.4 救急救命士8名となる。
- H17.3 国土交通省鹿児島国道事務所等と「南九州西回り自動車道における緊急時の通報並びに出動に関する協定」を締結
- H17.10 国分地区消防組合から救急車1台(トヨタ2400cc)を譲り受ける。
- H17.10 市来町との合併に伴い、現有救急車1台(トヨタ3400cc)をいちき分遣所に配置
- H17.11 薩摩川内市と「消防及び救急業務相互応援協定」を締結
- H17.12 鹿児島市消防局及び日置市消防本部と「南九州西回り自動車道における消防相互応援協定」を締結
- H17.12 日置市と「消防・救急業務相互応援協定」を締結
- H18.12 高規格救急自動車1台(ニッサン・パラメティック3500cc)を購入し、いちき分遣所に配置
- H18.12 H17.10国分地区消防組合(現霧島市消防局)から譲り受けた救急車を廃車
- H20.5 救急救命士9名となる。
- H22.4 救急救命士10名となる。
- H24.2 高規格救急自動車(ニッサン・パラメティック3500cc)及び高度救命処置用資器材を購入
- H24.2 H12.11購入の高規格救急自動車(ニッサン・パラメティック3300cc)をいちき串木野市医師会へ譲渡
- H25.1 高規格救急自動車(トヨタ・ハイメック2693cc)及び高度救命処置用資器材を購入
- H25.4 救急救命士11名となる。
- H26.4 救急救命士12名となる。
- H27.4 救急救命士13名となる。
- H28.4 救急救命士15名となる。

(2) 救急業務取扱状況

(H28年中)

	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計
											転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他	
出場件数			3	51	9	22	158	3	3	668	331			3	1,251
不搬送件数			2	11			8			55	2			1	79
搬送人員			1	45	9	24	150	4	3	614	329			3	1,182
性別	男		1	22	9	20	64	3	2	312	171				604
	女			23		4	86	1	1	302	157			3	577

(3) 傷病程度別搬送状況

(H28年中)

	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
死亡			1		1		1			15	1	19
重症				5	2		31			80	98	216
中等症				14	5	15	64		2	306	209	615
軽症				26	1	9	54	4	1	213	24	332
その他												
計			1	45	9	24	150	4	3	614	332	1,182

(4) 診療科目別搬送状況 (H28年中)

診療科目	搬送人員
内科一般	26
循環器科	157
消化器科	117
呼吸器科	111
神経内科	43
小児科	25
新生物	25
外科一般	10
整形外科	178
形成外科	8
脳神経外科	185
脳卒中	132
頭部外傷	53
泌尿器科	44
皮膚科	1
熱傷	0
その他	1
産婦人科	11
耳鼻咽喉科	8
眼科	1
精神科	16
服毒・中毒	12
その他	204
合計	1,182

(5) 搬送別状況 (H28年中)

搬送種別	搬送人員
条理搬送	507
依頼搬送	675
合計	1,182

(6) 覚知別出場状況 (H28年中)

覚知別	出場件数
専用(119)	805
加入電話	433
庁内電話	0
駆け付け	4
現認	0
消防無線	4
その他	5
合計	1,251

(7) 居住地別搬送状況 (H28年中)

居住地別	搬送人員
市内居住者	973
市外居住者	209
その他	0
合計	1,182

(8) 救急救命処置実施状況 (H28年中)

救急救命処置	男性	女性
気道確保	1	2
除細動	2	2
輸液	2	4
薬剤投与	1	1
合計	6	9

(9) 月別救急出場状況及び搬送人員の状況

(H28年中)

月別	事故種別 区分	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計	不搬送
												転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他		
1	件数				3		2	20		1	55	40				121	9
	人員				3		2	18		1	48	40				112	
2	件数				4	1	2	13			55	25				100	4
	人員				5	1	2	13			51	25				97	
3	件数				6	2		15	1		71	38				133	9
	人員				6	2		15	1		65	37				126	
4	件数				5		4	15	2		63	29				118	8
	人員				4		4	13	3		59	29				112	
5	件数				4			8			55	22				89	6
	人員				3			8			50	22				83	
6	件数				4		1	13		1	47	23				89	7
	人員				3		1	10		1	44	23				82	
7	件数				4	1	3	15			59	24			1	107	6
	人員				3	1	3	14			55	24			2	102	
8	件数				2	2	4	12			51	33				104	4
	人員				2	2	6	12			47	33				102	
9	件数			1	2	1	2	9			45	23				83	3
	人員				2	1	2	9			43	23				80	
10	件数				9	1		13			46	28			1	98	5
	人員				7	1		13			43	28			1	93	
11	件数			2	3	1	4	13			56	28				107	6
	人員			1	3	1	4	13			52	28				102	
12	件数				5			12		1	65	18			1	102	12
	人員				4			12		1	57	17				91	
合計	出件場数			3	51	9	22	158	3	3	668	331			3	1,251	79
	搬送人員			1	45	9	24	150	4	3	614	329			3	1,182	

(10) 曜日別救急出場状況

(H28年中)

曜日	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計
											転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他の	
日			1	9		3	17	1		96	17				144
月				3	2	1	26			107	61				200
火			1	2	2	2	18		2	120	54			1	202
水				12	2	1	31		1	79	48			1	175
木			1	14	1	5	22	2		100	40				185
金				7	1	1	14			86	66				175
土				4	1	9	30			80	45			1	170
合計			3	51	9	22	158	3	3	668	331			3	1,251

(11) 現場到着所要時間別出場件数

(H28年中)

事故種別	現場到着	現場到着所要時間					計	現場到着平均所要時間(分)
		3分未満	3分以上5分未満	5分以上10分未満	10分以上20分未満	20分以上		
急病		24	174	331	130	9	668	6.9
交通事故		8	11	21	9	2	51	6.8
一般負傷		7	49	69	30	3	158	6.8
その他		22	126	197	26	3	374	5.6
合計		61	360	618	195	17	1,251	6.6

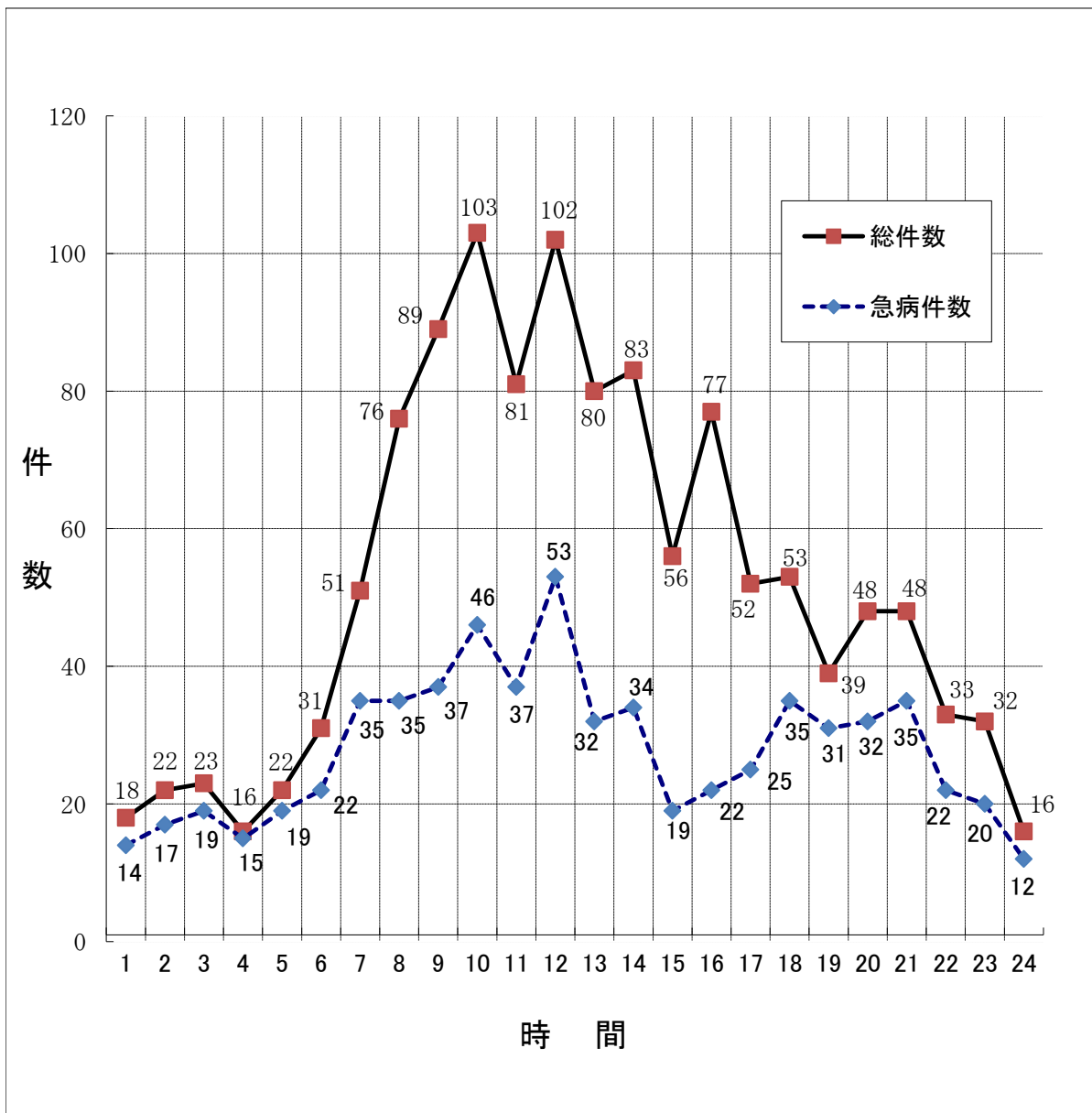
(12) 収容所要時間別搬送人員

(H28年中)

事故種別	収容所要時間	収容所要時間					計	収容平均所要時間(分)
		10分未満	10分以上20分未満	20分以上30分未満	30分以上60分未満	60分以上		
急病			51	195	328	40	614	36.2
交通事故			2	19	22	2	45	32.2
一般負傷		1	11	74	57	7	150	31.7
その他		1	63	67	226	16	373	36.8
合計		2	127	355	633	65	1,182	35.7

(13) 時間別出場状況（総件数及び急病件数）

(H 2 8 年中)



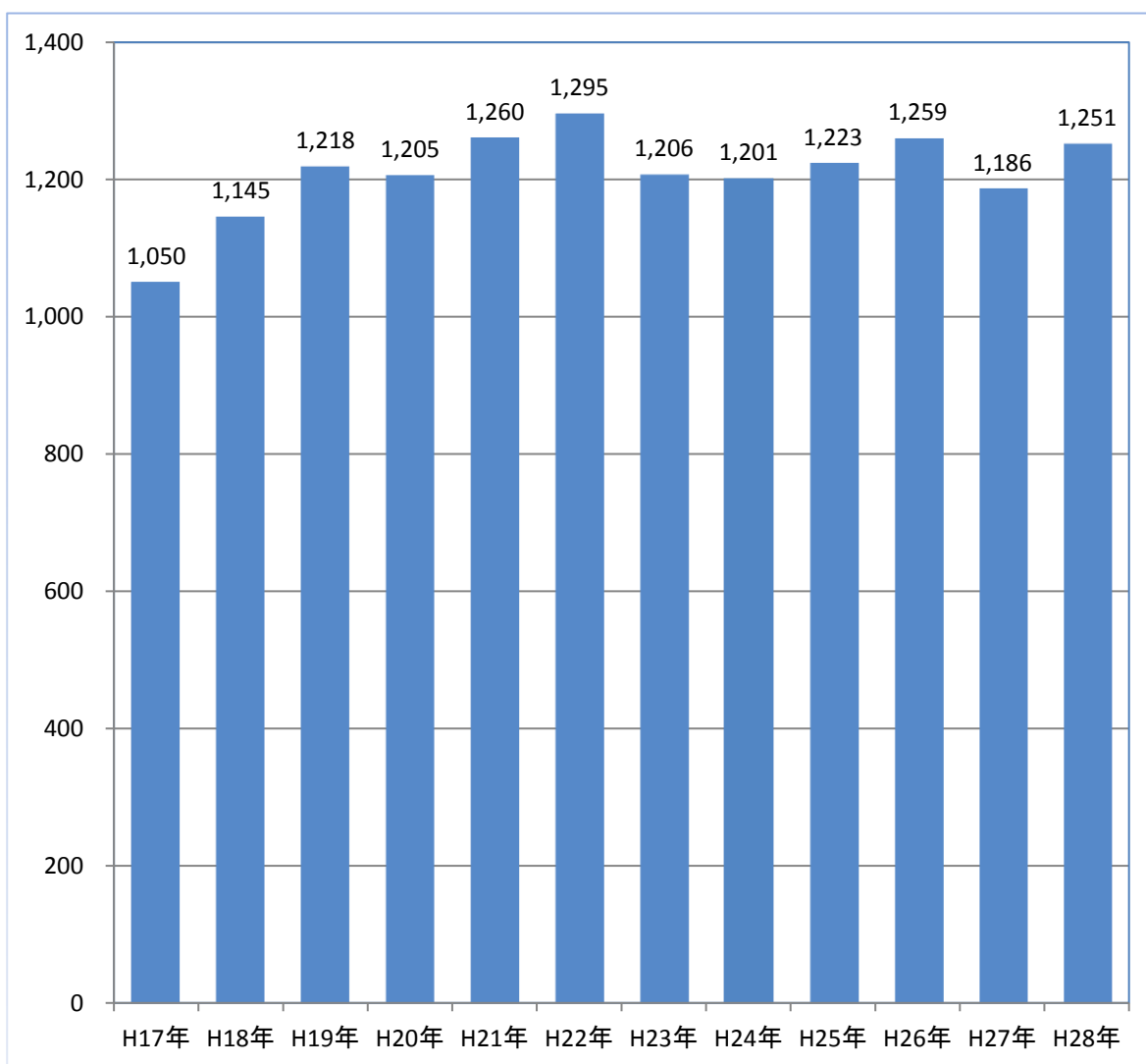
(14) 市別搬送状況（搬送先）

(H 2 8 年中)

搬送先 区分	いちき串木野市	鹿児島市	薩摩川内市	日置市	その他	計
搬送人員	690	257	157	71	7	1,182
比率（%）	58.38	21.74	13.28	6.01	0.59	

※注 比率にあつては、小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計が100にならないことがあります。

(15) 救急出場件数の推移



(16) 過去5年間の救急出場状況

事故種別 年別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計
											転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他	
平成24年			4	87	5	6	161	4	14	616	301	1		2	1,201
平成25年			1	104	7	5	159	2	6	631	308				1,223
平成26年			1	85	9	14	184	1	12	610	340			3	1,259
平成27年	1		4	77	15	9	143	1	14	600	320	2			1,186
平成28年			3	51	9	22	158	3	3	668	331			3	1,251

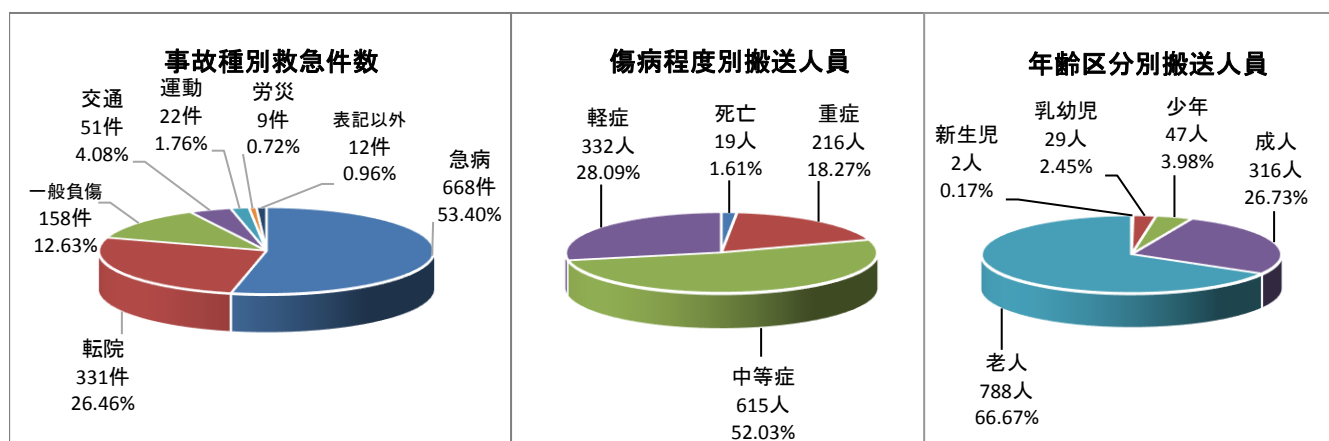
(17) 年齢別搬送人員状況

(H28年中)

年齢別	事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				合計
												転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他	
0～9								6			27	3			1	37
10～19					5		19	1		1	25	3				54
20～29					4	1	2	2		1	31	7				48
30～39					1	3	2	3			27	13			2	51
40～49					6	1	1	5	2		32	10				57
50～59					3	1		14			39	18				75
60～69			1		7	1		21	2	1	97	43				173
70～79					13	2		24			126	74				239
80～89					6			49			165	117				337
90～								25			45	41				111
計			1		45	9	24	150	4	3	614	329			3	1,182

(18) 各比率

(H28年中)



※注 比率にあつては、小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計が100にならないことがあります。

※ 救急出場件数 1,251件
 ※ 搬送人員 1,182人

※ 年齢区分
 新生児 (生後28日以内)
 乳幼児 (29日以上7歳未)
 少年 (7歳以上18歳未)
 成人 (18歳以上65歳満)
 老人 (65歳以上)

4 救助業務統計

(1) 救助出動状況

(H28年中)

	月 日	事 故 種 別	災 害 発 生 場 所	出 動 車 両	出 動 人 員	活 動 車 両	活 動 人 員	救 助 人 員
1	2/29	その他の事故	港町 (建設中の御堂基礎部上)	2	6	2	6	1
2	3/2	機械による事故	冠岳 久木野公民館南東側山林	3	9	3	9	1
3	3/3	交通 事 故	金山 国道3号線上 (金山橋付近)	5	13	4	10	1
4	4/14	その他の事故	羽島 萩元平身川上流	2	5	2	5	1
5	4/17	その他の事故	羽島 県道川内串木野線歩道上	4	11	4	11	1
6	7/9	その他の事故	荒川 荒川浜岩場	3	8	3	8	1
7	7/26	その他の事故	高見町 一般住宅	2	5	0	0	0
8	7/26	その他の事故	川上 中組急傾斜地	3	7	3	7	1
9	8/30	建物等による事故	酔之尾 神村学園敷地内	4	10	4	10	1
10	9/27	水 難 事 故	八房 八房川左岸	5	12	5	12	1
11	11/3	水 難 事 故	羽島 白浜沖合	3	7	0	0	0
12	11/14	水 難 事 故	まぐろ本町 漁港外港	4	10	4	10	1
13	11/20	水 難 事 故	照島 照島神社南西側沖合	5	12	5	12	1
14	12/12	交通 事 故	京町 交差点内	3	7	3	7	1
合 計				48	122	42	107	12

(2) 過去5年間の救助出動状況

区 分		年				
		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
出 動 件 数		20	23	16	14	14
活 動 件 数		13	14	8	5	12
救 助 人 員		15	19	8	5	12
事 故 種 別	火 災					
	交 通 事 故	12	15	13	9	2
	水 難 事 故	4	1	1	3	4
	自 然 災 害					
	機 械				1	1
	建 物		2			1
	ガ ス ・ 酸 欠					
	爆 発					
	そ の 他	4	5	2	1	6

5 応援協定等の締結状況

(H29.4.1 現在)

締結年月日	協 定 先 名	協 定 の 種 類
S36.9.25	いちき串木野警察署	災害救助に関する協定
S45.6.15	串木野海上保安部	船舶火災の消火に関する業務協定 H6.8.19 一部改正
H9.9.24	日本地下石油備蓄(株)串木野事業所	串木野市と日本地下石油備蓄(株)串木野事業所との応援協定
H10.4.1	薩摩川内市消防局	携帯電話等からの119番通報転送等に関する協定
H10.6.26	県内各市町村及び各消防本部	鹿児島県消防・防災ヘリコプター応援協定
H12.3.1	いちき串木野市医師会	救急救命士に対する医師の指示に関する協定
H17.11.18	薩摩川内市	消防及び救急業務相互応援協定
H17.12.12	日置市	消防・救急業務相互応援協定
H18.10.25	県内市町村及び消防の一部事務組合	鹿児島県消防相互応援協定
H19.3.1	国土交通省鹿児島国道事務所 県警察本部交通部高速道路交通警察隊 薩摩川内市消防局	南九州西回り自動車道における緊急時の通報並びに出動に関する覚書
H19.3.2	鹿児島市 日置市 薩摩川内市	南九州西回り自動車道における消防相互応援協定 H27.3.7 一部改正
H23.12.22	各市町村	鹿児島県ドクターヘリ運行事業における救急搬送に関する相互応援協定

V 機 械 ・ 水 利

消 防 車 両	消防本部（署）・・・・・・・・・・	13台
	消防団・・・・・・・・・・	17台
消 火 栓	・・・・・・・・・・・・・・・・	547基
防 火 水 槽	・・・・・・・・・・・・・・・・	298基
消 防 無 線	基地局・・・・・・・・・・	1基
	固定局・・・・・・・・・・	2基
	陸上移動局（卓上）・・・・・・・・	1基
	陸上移動局（可搬）・・・・・・・・	1基
	陸上移動局（車載）・・・・・・・・	31基
	陸上移動局（携帯）・・・・・・・・	42基

1 基準消防力と現有消防力との比較

(1) 消防本部（署）

(H29.4.1現在)

種 別 \ 区 分	基 準	現 有	充足率 (%)	過・不足 (▲)
署所の数	2	2	100	0
人員	95	48	50.5	▲ 47
消防ポンプ車	3	2	67	1
はしご車	1	1	100	0
化学車	1	1	100	0
救急車	2	2	100	0
救助工作車	1	1	100	0
非常用消防自動車	1	1	100	0
非常用救急自動車	1	1	100	0

(2) 消防団

(H29.4.1現在)

種 別 \ 区 分		基 準	現 有	充足率 (%)	過・不足 (▲)
市街地	動力消防ポンプ	8 口	消防ポンプ車 3 台 6 口	113	1 口
			小型動力ポンプ 3 台 3 口		
準市街地	動力消防ポンプ	20 口	消防ポンプ車 5 台 10 口	75	▲ 5 口
			小型動力ポンプ 5 台 5 口		
その他	動力消防ポンプ	11 口	消防ポンプ車 2 台 4 口	100	0 口
			小型動力ポンプ 7 台 7 口		
人 員		584 人	258 人	44.2	▲ 326 人

(3) 消防職・団員と市民との割合

(H29.4.1現在)

種 別 \ 区 分	消 防 職 員 (1 人 当 り)	消 防 団 員 (1 人 当 り)
世 帯 (13,351)	278.1	51.7
人 口 (28,569)	595.2	110.7

2 消防機械器具及び水利状況

(1) 消防署の消防車両状況

(H29.4.1現在)

種 別	車 種	車 名	車両番号	登録年月	ポンプ性能	排気量	定 員	総重量	長 さ	幅	高 さ	備 考
					(l/分)	(cc)	(人)	(kg)	(cm)	(cm)	(cm)	
水槽付消防ポンプ自動車	日 野	署 タ ン ク 車	鹿児島831 ふ 119	2011年2月	A-2吉谷	6,400	6	10,120	735	227	290	ディーゼル車 石油交付金事業
消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	ポ ン プ 1	鹿児島800 す 6923	2016年2月	A-2森田	4,000	6	6,850	584	192	290	ディーゼル車
消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	銀 河 号	鹿児島800 さ 9964	2007年3月	A-2森田	4,000	6	5,370	575	189	280	ディーゼル車 石油交付金事業
梯子付消防自動車	日 野	は し ご 車	鹿児島88 ゆ 754	1990年10月		7,410	6	12,660	995	249	340	ディーゼル車
化学消防自動車	三 菱	化 学 車	鹿児島88 ゆ 1343	1992年12月	A-2日機 1,600	16,030	7	14,925	830	249	296	ディーゼル車
救 助 工 作 車	日 野	救 助 工 作 車	鹿児島800 は 1867	2016年10月		6,400	6	11,510	789	232	315	ディーゼル車
指 揮 広 報 車	ニッサン	さ の さ 号	鹿児島88 に 3465	1997年10月		1,990	8	1,980	435	169	199	ガソリン車 寄贈車
高 規 格 救 急 車	ニッサン	救 急 1 号 車	鹿児島800 す 3733	2012年2月		3,490	7	3,245	564	190	253	ハイオク車 石油交付金事業
高 規 格 救 急 車	トヨタ	救 急 2 号 車	鹿児島800 す 4477	2013年1月		2,690	7	3,205	562	189	249	ガソリン車 石油交付金事業
高 規 格 救 急 車	ニッサン	救急いちき1号車	鹿児島800 さ 9643	2006年12月		3,490	7	3,275	575	190	246	ハイオク車 石油交付金事業
運 搬 車	ホンダ	運 搬 車	鹿児島80 あ 1331	2001年3月		650	2	1,440	339	147	193	ガソリン車 原子力防災資機材 (県)貸与品
軽 積 載 車	ニッサン	防 災 活 動 車	鹿児島880 あ 743	2010年1月		650	2(4)	1460	339	147	195	ガソリン車 寄贈車
軽 積 載 車	三 菱	いちきミニ車	鹿児島80 あ 1277	2000年9月	B-3小型動力 ポンプを積載	650	2	1260	339	147	197	ガソリン車

(2) 消防団の消防車両及び小型ポンプの状況

ア 串木野地域

(H29.4.1現在)

分団名	種 別	車 種	車 名	車 両 番 号	登録年月	ポンプ性能	排気量	定員	総重量	長さ	幅	高さ	備 考
						(ℓ/分)	(cc)	(人)	(kg)	(cm)	(cm)	(cm)	
団本部	指揮連絡車	トヨタ	団本部車	鹿児島88 す 6457	1996年3月		2,180	8	2,060	469	169	210	ディーゼル車
中央	消防ポンプ自動車	日野	たつまき号	鹿児島800 さ 8954	2006年3月	A-2 モリタ	4,001	10	4,530	571	188	246	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ積載車	トヨタ	すいせい号	鹿児島800 さ 6060	2015年2月		2,980	8	3,010	502	170	233	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				2015年2月	B-3 トーハツ 1,420	617						石油交付金事業
本浦	消防ポンプ自動車	トヨタ	あさかぜ号	鹿児島800 す6059	2015年2月	A-2 日機 2,300	4,000	10	4,060	573	188	258	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				2005年3月	B-3 ラビット 1,400	635						石油交付金事業
照島	消防ポンプ自動車	日野	照月号	鹿児島800 さ 8956	2006年3月	A-2 モリタ	4,001	10	4,530	567	188	246	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ積載車	トヨタ	くろせ号	鹿児島800 す 6915	2016年2月		2,980	8	3,010	502	171	233	ディーゼル車
	小型動力ポンプ				2016年2月	B-3 トーハツ 1,400	617						石油交付金事業
羽島	消防ポンプ自動車	日野	さちかぜ号	鹿児島800 す 5209	2013年12月	A-2 モリタ	4,009	10	4,700	559	188	274	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ積載車	三菱	積載車	鹿児島800 さ 2254	2000年10月		1,990	9	2,735	499	169	242	ガソリン車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				2000年10月	B-3 トーハツ 1,420	617						石油交付金事業
	小型動力ポンプ積載車	ニッサン	あこう号	鹿児島800 す 745	2008年2月		1,990	9	2,975	497	178	232	ガソリン車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				2008年2月	B-3 トーハツ 1,130	526						石油交付金事業
荒川	小型ポンプ搭載消防自動車	トヨタ	荒星号	鹿児島800 す 4427	2012年12月	B-2 トーハツ 1,000	4,000	8	3,740	511	169	266	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				2001年12月	B-3 シハウラ 1,440	618						石油交付金事業
旭	消防ポンプ自動車	トヨタ	こがね号	鹿児島800 す 2272	2010年3月	A-2 日機	4,000	10	4,500	573	188	242	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				2001年12月	B-3 シハウラ 1,440	618						石油交付金事業
生福	消防ポンプ自動車	三菱	生龍号	鹿児島88 す 7166	1996年11月	A-2 日機 2,370	4,560	10	4,220	524	189	241	ディーゼル車
	小型動力ポンプ				2005年3月	B-3 ラビット 1,400	635						石油交付金事業
冠岳	小型ポンプ搭載消防自動車	トヨタ	やまびこ号	鹿児島800 す 4428	2012年12月	B-2 トーハツ 1,000	4,000	10	4,270	561	188	268	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				2001年12月	B-3 シハウラ 1,440	618						石油交付金事業

イ 市来地域

(H29.4.1現在)

分団名	種 別	車 種	車 名	車両番号	登録年月	ポンプ性能 (ℓ/分)	排気量 (cc)	定員 (人)	総重量 (kg)	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	備 考
湊	消防ポンプ自動車	いすゞ	飛 竜	鹿児島88 す 8413	1997年11月	A-2 森田	4,570	7	3,945	549	190	247	ディーゼル車
	小型動力ポンプ				2005年3月	B-3 トーハツ 1420	617						石油交付金事業
川南	消防ポンプ自動車	日 野	蒼 竜	鹿児島800 す 779	2008年2月	A-2 GMVいちほら	4,000	10	4,560	572	188	256	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				2003年10月	B-3 トーハツ 1,440	617						石油交付金事業
川北	消防ポンプ自動車	いすゞ	海 竜	鹿児島88 す 8414	1997年11月	A-2 森田	4,570	7	3,945	549	190	247	ディーゼル車
	小型動力ポンプ				2005年3月	B-3 トーハツ 1420	617						石油交付金事業
川上	消防ポンプ自動車	日 野	昇 竜	鹿児島800 す 1382	2009年1月	A-2 吉谷	4,000	10	4,730	588	188	252	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				2007年11月	B-3 トーハツ 1,130	526						石油交付金事業

(3) 署・各分団ポンプ及びホースの保有状況

(H29.4.1現在)

区分 署・団	ポンプ台数		ホース本数			
	ポンプ車	小型ポンプ	40mm	50mm	65mm	小計
消防署	3		31	86	116	233
分遣所	1	1	8	54	90	152
団本部					75	75
中央	1	1	2	12	80	94
本浦	1	1	2	10	66	78
照島	1	1	2	22	75	99
羽島	1	1	7	10	97	114
羽島 (土川班)		1				
荒川		2	2	10	50	62
旭	1	1	2	10	67	79
生福	1	1	2	10	67	79
冠岳		2	2	13	59	74
湊	1	1		10	68	78
川南	1	1		10	70	80
川北	1	1		10	64	74
川上	1	1		10	64	74
合計	14	16	60	277	1,108	1,445

(4) 消防資機材の保有状況

(H29.4.1 現在)

種別	車両等別							種別	車両等別								
	署 タンク 車	銀 河 号	は し ご 車	化 学 車	救 助 工 作 車	資 材 庫 他	い ち き 分 遣 所		合 計	署 タンク 車	銀 河 号	は し ご 車	化 学 車	救 助 工 作 車	資 材 庫 他	い ち き 分 遣 所	合 計
かぎ付はしご	1				1	1	1	4	送排風機			1		2			3
三連はしご(二連)	1	(1)			1		1	3(1)	ジェットシューター	5						5	10
金属製折畳みはしご						1	1	2	造林がま	2	4				7	2	15
空気式救助マット						1		1	耐電手袋			2		5		1	8
救命索発射銃					1			1	ストライカー					1			1
サバイバースリング					2			2	耐電衣(上・下)			2					2
救助用縛帯			2		1		1	4	耐電長靴			2					2
ポートパワー						2		2	耐電ヘルメット			2					2
可搬式ウインチ					1	1	1	3	車載固定型発電機					1			1
エンジンカッター	1				1	1	1	4	車載伸縮式照明装置	1				1			2
ガス溶断器					1			1	車載固定型ウインチ					1			1
チェーンソー					1	4	2	7	発電機	1		1		2	4	2	10
鉄線カッター	2	1	1		1	1	1	7	投光器	1		2		2	2	2	9
万能斧(ベンケイ)					3	2	1	6	掛矢	2	1			1	5	1	10
ハンマー			1	1	1	1	1	5	斧			1	1		7	1	10
可燃性ガス・酸素測定器					2		1	3	分岐金具(65×65)	2	1	1	1		1	2	8
空気呼吸器	4	4	4	4	4	14	5	39	分岐金具(65×50)	1							1
安全帯			5		5		2	12	分岐金具(65×40)	1	1						2
耐熱服				4				4	分岐金具(50×40)	1							1
潜水資器材一式						9		9	放水銃							1	1
救命胴衣	5				4	28	4	41	プロジェクトガン(40m/m用)	2	2					1	5
救命浮環					1	7	2	10	ロータリーノズル						1	1	2
バスケット担架	2				2	1	1	6	ピックアップノズル(2000型)				1		2	2	5
携帯拡声器	1	1			3	2	2	9	エアフォームノズル(4000型)				4				4
マット型空気ジャッキ式					1			1	泡放水銃(8000型)				2				2
大型油圧スプレッダー					1			1	ノズル付高压ホース(30m)				2				2
大型油圧切断機					1			1	東消式簡易発泡器				1		1	1	3
鉄筋カッター(ロードレス)					1			1	ラインプロポーションナー				1		1	1	3
大型油圧器具 (プランジャーラム)					1			1	ウォーターチャージャー	1							1
空気鋸			1		1		1	3	オイルフェンス(A型)140m						1		1
野営宿泊用テント一式						1		1	防毒マスク						6		6
S K E D					1		1	2	レシプロソー					1	1	1	3
ハンマードリル			1		1			2									

(5) 消火薬剤等の保有状況

(H29. 4. 1 現在)

合成界面活性剤（プロフォーム）	960 ℓ	
フォレックスパン S	220 ℓ	
たんぱく泡（エアフォーム3%・6%）	2,380 ℓ	
油 吸 着	吸着マット	122 枚
吸 収 材 等	吸着（収）材	51 kg
流出油処理剤	72 ℓ	
オイルフェンス（S0-200E）	140 m	

(6) 原子力防災資機材の保有状況

(H29. 4. 1 現在)

空気呼吸器（予備ボンベ付）	32 基	
ポケット線量計	アラーム機能なし	20 個
	アラーム機能あり	103 個
防 護 マ ス ク	260 個(フィルター1,282個)	
防 護 服	アノラック型	360 着
	タイベック型	375 着
防 護 靴	195 足	
防護靴（オーバーシューズ）	448 足	
防 護 手 袋	ゴ ム 製	375 双
	綿 製	375 双
作 業 帽	375 個	
携 帯 用 拡 声 器	20 基	
ト ラ ン シ ー バ ー	24 基	
サーベイメータ（ポケット型含む。）	8 基	
夜間災害用発電機一式	5 組	
資機材運搬用車両	1 台	
パ ソ コ ン	2 台	
レ ー ザ ー プ リ ン タ ー	1 台	
脚付き両開きボード	1 台	
マルチプロジェクトタ	1 台	
ス ク リ ー ン	1 台	
エ ア ー テ ン ト	1 式	
化 学 防 護 服	5 着	
可搬型衛星携帯電話	1 式	
簡易放送用設備	1 式	
空気呼吸器拡声器（充電器含む。）	18 基	
デ ジ タ ル カ メ ラ	3 基	
ワイヤレスメガホン	1 式	
エアー膨張式投光装置	1 式	
空気ボンベ用空気圧縮機	1 基	

(7) 消防水利の状況（消防水利の基準に適合しないものも含む。）

ア 串木野地域

(H29.4.1現在)

水利の別		地区別 配管及び水量	中	本	照	羽	荒	旭	生	冠	合
			央	浦	島	島	川		福	岳	計
消火栓 (公設)	350mm		1		1						2
	300mm		7		2						9
	250mm		8	1	2						11
	200mm		8	9	4	1				4	26
	150mm		39	18	20	8	4		6	3	98
	100mm		57	9	21	11	3	4	15	2	122
	75mm		27	7	15	18	5	11	5	3	91
小計 A			147	44	65	38	12	15	26	12	359
防火水槽 (公設)	40m ³ 以上		17	4	16	7	6	3	9	5	67
	30m ³ 以上 40m ³ 未満		43	6	18	17	6	10	14	6	120
	20m ³ 以上 30m ³ 未満		2	1	3	1		2		3	12
	20m ³ 未満		5	1		2					8
	(私設)	40m ³ 以上		1	1						2
	小計 B			68	12	38	27	12	15	23	14
プール	40 m ³ 以上		3		3	2	1	1	1	1	12
河川	常時取水可能		7	1	3	2	3	1	4	2	23
海水	常時取水可能			4	1	1					6
小計 C			10	5	7	5	4	2	5	3	41
総計 A+B+C			225	61	110	70	28	32	54	29	609

イ 市来地域

(H29.4.1現在)

水利の別		地区別	湊	川南	川北	川上	合計
		配管及び水量					
消火栓 (公設)	200mm	14					14
	150mm	6	8	5			19
	125mm	1					1
	100mm	21	14	19	10		64
	75mm	19	15	11	15		60
	65mm以下	3	5	14	8		30
小計 A		64	42	49	33		188
防火水槽 (公設)	40m ³ 以上	22	15	19	23		79
	30m ³ 以上	1	1	1			3
	40m ³ 未満						
	20m ³ 以上			5			5
	30m ³ 未満						
(私設)	40m ³ 以上			2			2
小計 B		23	16	27	23		89
プール	40 m ³ 以上	1	2		1		4
河川	常時取水可能	5		3	2		10
海水	常時取水可能						
小計 C		6	2	3	3		14
総計 A+B+C		93	60	79	59		291

(8) 消防無線の状況

ア 消防本部

(H29. 4. 1 現在)

局 別	数	電力	周 波 数	呼 称	設 置 場 所	納品年月	経過年数	会 社 名	再免年月
基地局	1	20W	① 活動波 1 ② 活動波 2	いくしょうほんぶ	(送受信所) 長城中継所 (通信所) 消防本部	H28. 3	1 年	富士通 ゼネラル	H32. 5
固定局	2	500mW	7.5GHz帯周波数 (長城中継所・ 消防本部間通信 確保用)	いくしょうちようじょう	長城中継所	H28. 3	1 年	日本無線	H29. 11
				いくしょうほんぶ	消防本部	H28. 3	1 年		H29. 11
陸上移動局 (卓上型)	1	10W	① 活動波 1 ② 活動波 2 ③ 統制波 1 ④ 統制波 2 ⑤ 統制波 3 ⑥ 主運用波 1 ⑦ 主運用波 2 ⑧ 主運用波 3 ⑨ 主運用波 4 ⑩ 主運用波 5 ⑪ 主運用波 6 ⑫ 主運用波 7	いくしょうほんぶ 1	消防本部	H28. 3	1 年	富士通 ゼネラル	H32. 5
陸上移動局 (可搬型)	1			いくしょうかはん 1	いちき分遣所	H28. 3	1 年		H32. 5
陸上移動局 (車載型)	14			いくしょうしきほんぶ	さのさ号	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょうたんく 1	署タンク車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょうたんく 2	いちき分遣所	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょうぼんぷ 1	ポンプ 1	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょうぼんぷ 2	銀河号	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょうかがく 1	化学車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょうきゆうじょ 1	救助工作車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょうはしご 1	梯子車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょうぼうかつ 1	防災活動車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょううんばん 1	運搬車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょうせきさい 1	いちきミニ車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょうきゆうきゆう 1	救急 1 号車	H28. 3	1 年		H32. 5
いくしょうきゆうきゆう 2	救急 2 号車	H28. 3	1 年	H32. 5					
いくしょうきゆうきゆう 3	救急 3 号車	H28. 3	1 年	H32. 5					
陸上移動局 (携帯型)	27	5W	① 活動波 1 ② 活動波 2 ③ 統制波 1 ④ 統制波 2 ⑤ 統制波 3 ⑥ 主運用波 1 ⑦ 主運用波 2 ⑧ 主運用波 3 ⑨ 主運用波 4 ⑩ 主運用波 5 ⑪ 主運用波 6 ⑫ 主運用波 7	いくしょう 1 1	さのさ号	H28. 3	1 年	富士通 ゼネラル	H32. 5
				いくしょう 1 2		H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 1 3		H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 1 4	署タンク車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 1 5		H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 1 6		H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 1 7	H28. 3	1 年	H32. 5		
				いくしょう 1 8	救急 3 号車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 1 9		H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 2 0	救助工作車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 2 1		H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 2 2	H28. 3	1 年	H32. 5		
				いくしょう 2 3	救急 2 号車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 2 4		H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 2 5	H28. 3	1 年	H32. 5		
				いくしょう 2 6	通信指令室	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 2 7		H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 2 8		H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 2 9	H28. 3	1 年	H32. 5		
				いくしょう 3 0	H28. 3	1 年	H32. 5		
				いくしょう 3 1	いちきタンク車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 3 2		H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 3 3	救急 1 号車	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 3 4		H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 3 5		H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 3 6	銀河号	H28. 3	1 年		H32. 5
				いくしょう 3 7		H28. 3	1 年		H32. 5

イ 消防団

(H29. 4. 1 現在)

局 別	数	電力	周 波 数	呼 称	設 置 場 所	納品年月	経過年数	会 社 名	再免年月
陸上移動局 (車載型)	17	10W	① 活動波 1 ② 活動波 2 ③ 統制波 1 ④ 統制波 2 ⑤ 統制波 3 ⑥ 主運用波 1 ⑦ 主運用波 2 ⑧ 主運用波 3 ⑨ 主運用波 4 ⑩ 主運用波 5 ⑪ 主運用波 6 ⑫ 主運用波 7	いくしょうだんほんぶ 1	団本部 団本部車	H28. 3	1年	富士通 ゼネラル	H32. 5
				いくしょうちゅうおう 1	中央分団 たつまき号	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうちゅうおう 2	中央分団 すいせい号	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうもとうら 1	本浦分団 あさかぜ号	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうてるしま 1	照島分団 照月号	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうてるしま 2	照島分団 くろせ号	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうはしま 1	羽島分団 さちかぜ号	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうはしま 2	羽島分団 積載車	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうつちかわ 1	羽島分団 あこう号	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうあらかわ 1	荒川分団 荒星号	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうあさひ 1	旭分団 こがね号	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうせいふく 1	生福分団 生龍号	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうかんむりだけ 1	冠岳分団 やまびこ号	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうみなと 1	湊分団 飛竜	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうかわみなみ 1	川南分団 蒼竜	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうかわきた 1	川北分団 海竜	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうかわかみ 1	川上分団 昇竜	H28. 3	1年		H32. 5
陸上移動局 (携帯型)	15	5W	① 活動波 1 ② 活動波 2 ③ 統制波 1 ④ 統制波 2 ⑤ 統制波 3 ⑥ 主運用波 1 ⑦ 主運用波 2 ⑧ 主運用波 3 ⑨ 主運用波 4 ⑩ 主運用波 5 ⑪ 主運用波 6 ⑫ 主運用波 7	いくしょうだんほんぶ 1 1	団本部	H28. 3	1年	富士通 ゼネラル	H32. 5
				いくしょうだんほんぶ 1 2	団本部	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうだんほんぶ 1 3	団本部	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうちゅうおう 1 1	中央分団	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうもとうら 1 1	本浦分団	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうてるしま 1 1	照島分団	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうはしま 1 1	羽島分団	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうあらかわ 1 1	荒川分団	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうあさひ 1 1	旭分団	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうせいふく 1 1	生福分団	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうかんむりだけ 1 1	冠岳分団	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうみなと 1 1	湊分団	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうかわみなみ 1 1	川南分団	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうかわきた 1 1	川北分団	H28. 3	1年		H32. 5
				いくしょうかわかみ 1 1	川上分団	H28. 3	1年		H32. 5

VI 気 象

年平均気温	19.1℃
-------	-------	-------

年間降水量	2,670.0mm
-------	-------	-----------

年平均風速	2.8m/s
-------	-------	--------

1 気象観測の状況 (観測所：消防署)

(H28年中)

月 区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	
快晴日数	0	1	3	1	2	1	2	1	0	1	4	6	22	
晴天日数	9	12	18	10	14	5	16	26	19	11	15	11	166	
曇天日数	15	11	8	13	9	18	8	4	9	14	10	12	131	
雨天日数	5	5	2	6	6	6	5	0	2	4	1	2	44	
雪日数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
降水日数	18	10	9	18	9	18	12	7	11	15	12	12	151	
降水量	140.5	103.0	166.0	208.5	340.5	566.5	402.5	18.0	242.5	284.0	116.5	81.5	2670.0	
最大日降水量	66.5	42.0	61.5	58.0	110.5	116.5	94.5	10.5	56.0	81.5	29.5	43.5	最大/日 116.5	
風速	平均	3.0	3.4	2.8	3.0	2.9	2.7	2.7	2.6	2.6	2.4	2.5	3.1	年平均 2.8
	瞬間最大	25.5	23.8	21.9	24.4	18.2	19.4	10.0	21.1	32.6	18.2	16.7	11.0	最大/年 32.6
気温	平均	8.3	9.2	12.8	17.9	21.4	24.0	27.8	29.2	26.8	23.2	16.3	12.3	年平均 19.1
	最高	19.9	20.4	23.8	25.4	30.6	31.1	34.1	36.0	33.9	33.1	25.6	22.5	最高/年 36.0
	最低	-3.4	1.8	1.5	9.2	12.3	16.8	22.4	19.7	21.0	14.4	3.8	1.4	最低/年 -3.4
相対湿度	平均	78.3	71.1	73.1	84.3	82.6	92.3	89.8	82.6	86.4	84.5	78.3	74.2	年平均 81.5
	最高	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	最高/年 99.9
	最低	21.6	31.2	32.4	38.4	32.4	26.5	56.3	48.6	51.9	41.7	41.2	24.4	最低/年 14.3
実効湿度	平均	78.4	71.0	72.3	84.8	82.5	91.9	89.2	82.9	85.8	84.8	78.4	74.4	年平均 81.4
	最高	95.7	94.8	95.5	98.7	99.6	99.8	99.5	91.5	95.9	99.0	96.5	90.9	最高/年 99.8
	最低	58.9	48.3	51.1	67.3	59.8	70.7	59.5	64.5	66.1	64.3	60.9	56.8	最低/年 48.3
現地気圧	平均	1019.7	1021.0	1017.6	1011.5	1010.9	1007.4	1008.2	1002.8	1008.6	1013.6	1017.5	1020.1	年平均 1013.2
	最高	1031.7	1030.9	1027.0	1022.3	1019.7	1015.5	1015.8	1009.6	1016.3	1023.6	1027.0	1030.1	最高/年 1031.7
	最低	975.5	1006.4	1002.3	998.9	999.7	996.3	998.9	991.9	984.9	1001.0	1008.8	1004.4	最低/年 950.3

備考 天候の記録は午前9時現在の観測であり、降水日数は降水量が0.5mm以上あった日数である。

2 風向の状況

(H28中)

月 \ 風向	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年平均
北北東 (NNE)	32.3	3.4	16.1	0.0	0.0	0.0	3.3	3.2	3.3	19.4	20.0	22.6	10.3
北東 (NE)	12.9	20.7	32.3	26.7	32.3	40.0	30.0	54.8	50.0	48.4	30.0	35.5	34.5
東北東 (ENE)	3.2	0.0	0.0	10.0	22.6	10.0	10.0	3.2	23.3	16.1	6.7	0.0	8.8
東 (E)	3.2	3.4	9.7	13.3	6.5	13.3	0.0	3.2	3.3	0.0	0.0	3.2	4.9
東南東 (ESE)	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	3.3	3.3	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	1.1
南東 (SE)	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	3.3	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
南南東 (SSE)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	3.3	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.8
南 (S)	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	10.0	13.3	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	2.8
南南西 (SSW)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.6
南西 (SW)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.5
西南西 (WSW)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	3.3	13.3	9.7	0.0	3.2	0.0	0.0	2.7
西 (W)	0.0	0.0	9.7	16.7	25.8	10.0	13.3	22.6	3.3	0.0	0.0	0.0	8.5
西北西 (WNW)	9.7	3.4	0.0	3.3	0.0	3.3	0.0	0.0	3.3	0.0	6.7	12.9	3.6
北西 (NW)	3.2	17.2	6.5	10.0	3.2	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	6.7	9.7	5.0
北北西 (NNW)	12.9	20.7	19.4	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	3.2	26.7	12.9	8.5
北 (N)	22.6	27.6	6.5	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	3.2	6.1

※ 風向頻度 (%) を示す。

3 各地の降水量 (防災テレメーターによる。)

(H28年中)

月 \ 観測所	冠岳	生福	旭	荒川	羽島支所	土川	消防署
1	129.0	173.0	189.0	170.0	72.0	126.0	140.5
2	84.0	109.0	123.0	110.0	1.0	101.0	103.0
3	155.0	176.0	171.0	159.0	144.0	123.0	166.0
4	162.0	231.0	263.0	247.0	242.0	220.0	208.5
5	294.0	391.0	407.0	373.0	365.0	357.0	340.5
6	482.0	620.0	650.0	582.0	567.0	507.0	566.5
7	340.0	433.0	467.0	392.0	379.0	302.0	402.5
8	42.0	25.0	28.0	43.0	24.0	14.0	18.0
9	205.0	250.0	292.0	147.0	224.0	227.0	242.5
10	231.0	278.0	315.0	301.0	282.0	246.0	284.0
11	120.0	125.0	125.0	103.0	100.0	91.0	116.5
12	84.0	91.0	102.0	108.0	118.0	103.0	81.5
合計	2,328.0	2,902.0	3,132.0	2,735.0	2,518.0	2,417.0	2,670.0

**火事と救急は
119番**

いちき串木野市消防本部

鹿児島県いちき串木野市昭和通 133-1

〒896-8601 電話 0996 (32) 0119

FAX 0996 (32) 4396